

三
明治十五年

(表紙)

家譜 慶永公 從明治十五年一月
到同年十二月 二百十卷追加 十二

明治十五年

一月一日諸事御吉例之通御祝相濟若水御手水御難者御祝御大礼服御召替、神

殿御拜御供饌御祝詞、六時卅分御出門御參朝御昇降御車寄御退朝より青

山御所江御參上、御拜賀相濟有栖川宮・三条太政大臣・中山殿邸

明宮江御參賀、岩倉右大臣・徳大寺宮内卿・嵯峨殿邸滋宮江御參

賀、午前十一時前御帰邸、夫々御簾中様・御前様・康莊様御一同

二御座敷御臨坐正四位様福井御逗留中鈴木準道初御家従一統・中根新并女中

拜賀被為請候、御近例之通御旧臣年賀參上之節ハ屠蘇・御取肴玉

みかん・蒲鉾被下相成候、福井表午前六時發電報ヲ以正四位様御祝詞被

仰上

一同日御簾中様御參内御断ニ付、左之通御届相成候

私妻細川勇儀新年拜賀參内可致之処、旧臘より所勞ニ付本日不

參仕候、此段御届申上候也

明治十五年一月一日 正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一左之通

家務局

当直之節午後不及執務旨兼而申付置候処、自然用向有之出務之
様成行候ニ付、尚又本年より左之通可心得此旨稟告候事

一家令扶従共正午十二時退散午後不出務

但來客其他臨時多忙之節ハ非此限

一家令扶従正午十二時迄ニ而退散、至急ヲ不要事件ハ宅調ニ可

致事

一当直者人加番者人従前之通ニ可心得事

右之通可令確守事

明治十五年一月一日

一月三元始祭ニ付御參内可相成之処、御風邪ニ付御断相成候

一月五日新年宴会ニ付御參内相成候、大臣・參議御同列於御前酒

饌御頂戴、舞樂アリ

一月六日華族会館開館式ニ付十二時御出門御參館、御式畢り御開

宴、特撰幹事御惣代御祝詞御朗読

宝曆斯ニ改り歳華方ニ新ナリ、同族畢ク集リ共ニ親王ノ駕ヲ迎

へ開館ノ盛宴ニ陪シテ恩賜ノ椒酒ニ酔フ、喜慶何ソ極マラン、

冀クハ諸英ト共同ノ力ヲ振ヒ倍々館運ヲ拡張シ聖上優渥ノ特恩

ニ奉答センコトヲ謹ンテ祝ス

明治十五年一月六日

松平慶永

一月八日

各位愈御安寧奉賀候、抑来ル十三日如恒例新年宴会之義御案内
申入候処、今般宴会之儀ハ確堂者叙位慶永ハ叙勲、心祝之意ヲ
表し度ニ付兩人ニ而相催候、依而過日申入候通亀清樓江御賢息
方并令扶御随御光来有之度、尚詳細之義ハ同日拝眉之節可申
陳候、右御案内如斯候也

一月八日

松平慶永

松平確堂

御一族御連名

一

華族ニ而初而位階ヲ賜り候者、同日数人同位ニ被叙候節ハ其父
之位階ニ抛り其席順ヲ定メ、右之抛トコロ無之節者本人年齢之
長幼を以次第ヲ相定メ候義ト可心得、此旨相達候事

明治十四年十二月廿七日

宮内卿徳大寺実則

一月十三日

去年七月十三日正二位様勲二等ニ御拝叙、十二月廿八日確堂様從
三位ニ御進相成候ニ付、御両公ニ而御一族方例新年宴会ヲ御貰受、
両国亀清樓ニ於テ、御一族御一統御招ニ而御祝宴ヲ兼新年宴会御
開ニ相成、康莊様ニも御同伴ニ相成り御一族方御来会、御令扶も

隨從罷出候、御饗応画師荒木貫一御招喚相成候、午後九時過御帰
邸

一月十四日松平直方様御来邸、御家扶三上雄之御召連、御家從加
藤濟と申者御土蔵江忍入金子貳万五千兩公債証書盗去り候処、早ク
御探索相届キ御損害ニハ不相成候趣、右ニ付為御相談御入来有之
候事

一月十七日上野東照宮御参拜、夫々御年賀所々御勤被遊候

東照宮江 玉串料 金五拾錢

右被供之

一月廿日正四位様福井表御發途ニ付、府中表武田正規左之通電報
ケサハチバタチ、タビイマヲヒル午后一時五十分武生発
同 七時三十分着

一月廿一日

一 翰拝呈仕候、陳者来二月一日第五回惣会相開取締役更撰可相
成ニ付、自然御当撰相成候節者御差支無之哉予メ一応御伺上候
也

明治十五年一月廿一日

東京海上保險会社

一月廿二日西ノ久保神谷町失火、天徳寺台所・板塀・鐘楼等焼失

二及候

一月廿三日皇^(太脱)后宮御誕辰ニ付午前九時御出門、青山御所江御參賀

御祝酒御頂戴

同日正四位様本日神戸御着、明日御発航之旨電報ヲ以申上相成候
午后二時頃神戸御着
之旨電報ハ後五時到着

同日左之通御廻答相成候

御紙面致拝見候、然者二月一日該会社例会ニ付取締役更撰之際、自然当撰ニ相成候節者差支無之哉御照会之趣致承知候、拙者儀曾而理財上不案ニ付当撰之節可及御断心得ニ御坐候、右御回答如是候也

明治十五年一月廿三日

松平慶永

東京海上保険会社御中

一月廿四日

一金拾貳円五拾錢

天徳寺

右西ノ久保巴町辺出火之節、同寺囲塀・納家・鐘楼等焼失ニ付、為御手当被下之可然ニ付奉伺候也

明治十五年一月廿四日

家務局

伺之通可取計事 御印

一月廿五日

来ル廿七日正午十二時御陪食被仰付候旨御沙汰候条、此段申入候也

明治十五年一月十五日^(廿)

宮内卿徳大寺実則

正二位松平慶永殿

追而参内有無御申越有之度、此段添而申入候也

来ル廿七日正午十二時御陪食被仰付候旨御沙汰候条、参内可仕旨奉畏候、同時御命時参内可仕候也

明治十五年一月廿五日

正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一月廿六日

明廿七日正午十二時御陪食被仰付候旨、昨日宮内卿及御達候処、同日御着服ハフロックコート御着用御参内可有之候、此段為念申進候也

十五年一月廿六日

宮内書記官

正二位松平慶永殿

明廿七日正午十二時御陪食被仰付候ニ付、同日着服フロックコート着用参内候様拝承仕候也

十五年一月廿六日

正二位松平慶永

宮内書記官御中

一月廿七日午前十時卅分フロツクコート御召替御馬車御出門御参内、常御殿御二階に於て拝謁、食卓ニ御列床の人々

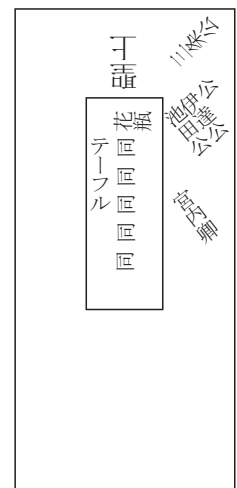
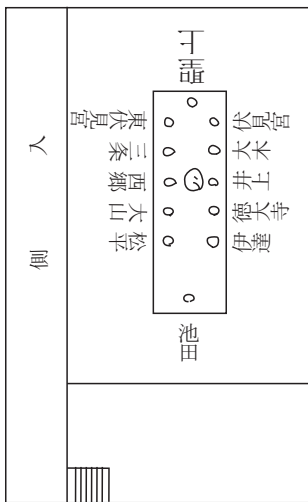
東伏見宮 伏見宮 太政大臣三条実美公 司法卿大木喬任公

外務卿井上馨公 陸軍卿大山巖公 宮内卿徳大寺実則公

正二位御名 従二位伊達宗城卿 正三位池田茂政公

御陪食畢而入御、御学問処江被為入、聖上出御、御陪食被仰付候面々列床コーヒー及セリー酒御戴、卷蓑御頂戴、勅語御談話有之、両宮・参議退殿、侍従箱三・目錄三指出、宮内卿御名・伊達・池田三公江御居残被仰出、御前江被為召勅語、徳川礼典録献上満足存スル、三条公御取合セ、唯今勅語之通不容易骨折苦勞被思召、以特旨花瓶壺対ツ、下賜之旨御申述、御礼被仰上御退坐、直二宮内省へ御出頭御礼被仰上、且花瓶御目錄添御頂戴御礼も共二被仰述御手札御退出御退出被遊候

御学問所御手續左之通



一月三十日孝明天皇御祭典、午前十時十分出門御参拝相成候

二月五日例月の天機伺として御参内相成候

二月六日

来ル十一日紀元節二付宴会被行候条、大礼着用午前十時四十分参内、且正午十二時午後二時迄二参拝可有之、此段相違候也

十五年二月六日

宮内卿徳大寺実則

二月九日

紀元節御題 梅花盛久

右例之通御詠進相成候様被仰出候

高崎正風

二月十一日紀元節二付御礼服御帶剣御佩章午前九時卅分御出門御参内、正門へ御車寄御昇降、午前十一時四十分新御坐鋪臨御、皇

族・大臣・参議・各国公使・代理公使・弁理公使・勅任官・麝香
 間祇候御列坐賜酒饌、舞楽あり、十二時廿分畢而麝香間之方々賢
 所御参拜、宮中祇候迄御礼被仰述直ニ御退下相成候、正四位様午
 前十時半御出門大礼服御着用部長局江被為入酒饌御頂戴、夫々宮
 内省江御拝賀、賢所御拜御退出被遊候

一二月十二日

来ル十四日正午十二時卅分御出門、神奈川県武州多摩郡蓮光寺
 村辺江行幸被仰出候条、此段相達候也

明治十五年二月十二日 宮内卿徳大寺実則

但シ十七日還幸御休泊附略之

一同日御庭稻荷社御祭典御執行例之通、神官滝本義延御依頼相成候、
 例之通奥表表統へ御酒肴・御赤飯被下ニ相成候

一同日福井県令石黒務江左之御祝文御送り相成候

客年二月七日福井県ヲ置レタル記念ヲ祝シテ左ノ祝文ヲ送ル、
 日月如流既ニ満一年ヲ経過セシ、客歳本月日ハ我天皇陛下ノ
 勅命ニ依リ太政大臣三条実美奉セラレ、福井県ヲ置キ県庁ノ位
 置ハ福井ト被定ノ公布アリ、特ニ百官中ヨリ撰拔セラレ数年地
 方官ニテ老熟セラレシ石黒君ヲ以テ県令ニ任セラレ、地租改正
 御用ニテ越前エ派遣セラレテ、其民情オモ熟知セラレシ大蔵一

等属多賀氏ヲ書記官トス、中央政府ノ如斯注意シ玉フハ実ニ感
 佩ノ至リナリ、本日ハ越前旧士民ニ無窮ノ幸福ヲ大政府ヨリ授
 与サレタル大祝日ナリ、慶永不肖ナリト雖トモ此祝日ノ死シテ
 モ必ス忘却セサルヘク、旧臣民モ亦タ慶永ノ意ト同シク置県ノ
 幸福ヲ拝受スルノ本日ハ、子々孫々ニ伝ヘテ遺忘セス、記念今
 日ヲ喜欣スル情ハ胸中ニ充滿スルコトト信認セリ、置県以前石
 川県管轄中ハ父母カ千里外ニ在ルカ如ク、千里外ノ父母ナル故
 ニ自ツカラ隔絶セリ、今ヤ父母ノ前ニ侍スル如ク情実貫徹其功
 益少カラサルコトヲ確認セリ、今般鐵路ノ挙アルモ募金等ノ件
 ヲ就キ旧領主タトヒ福井ニ集合スルモ、福井県ナク且県官ナク
 ンバ今日繁栄ヲ見ルコトナシ、然ラハ則チ置県ノ幸福ハ越海ノ
 深キヨリ、「落字アルカ(朱書)」栲衾白嶺ノ高サモイカテ及フヘキ、聖恩ノ洪大ナル
 感佩セスンバアルヘカラス、故ニ万分ノ一ヲ報酬スルハ慶永不
 肖タリト雖トモ、乍不及旧臣民ヲシテ方向ヲ誤ラス、帝室ノ精
 神ヲ伸暢シ授産方法ヲ立テ、共ニ尽力富栄ノ道ヲ開カンコトヲ
 希望スルニアリ、今日ノ石黒君・多賀氏ニ呈セン為ニ此愚文ヲ
 記セリ、石黒・多賀両君ノミナラス旧臣民ニ対シテモ祝詞ヲ述
 ヘント欲シタレトモ、嗚呼ケ間敷ヲ以テ此挙ハ止メタリ、希ク
 ハ県令及書記官・県官ノ永遠此県庁ニ奉職シ玉ヒテ旧臣民ニ幸
 福ヲ与ヘラレンコトヲ、且令公始ノ健安ヲ賀ス

明治十五年二月七日

正二位松平慶永頓首

一石黒県令奉答

客年石川・滋賀両県ヲ割テ更ニ福井県ヲ置カレ、県庁ノ位置ヲ福井卜定メラレタルノ日ナリ、越前人民ノ喜悅亦想フヘキナリ、何トナレハ当福井ハ古来年久シク藩庁ヲ置テ市民ヲ薫化セシ一市街ニシテ人民輻湊ノ地ナリ、故ニ廢藩ノ際ト雖トモ猶足羽県ヲ茲ニ置キ、南越五郡ヲ統轄セシメタリ、爾後地方改区ノ改正ニ際シ足羽ヲ廢シ敦賀ニ合ス、夫レ敦賀ノ地ハ木ノ芽ノ險アリテ人民往来ノ便ヲ欠キ、又石川ノ地タル素ヨリ隣接ノ国ナリト雖トモ、前来越其人情風俗ヲ異ニスルヲ以テ、之ニ合スルヲ嫌フノ情南越ノ七郡比々皆然リ、敢テ両県庁ノ処分ヲ厭忌スル等ノ事ハ毫モナク、唯単ニ往来ノ不弁ト人情ノ同シカラサルトヲ以テノミ、此置県ノ日ニ当リ不肖務ヲシテ此県令ニ任セラル務素ヨリ未熟、不肖或ハ其負荷ニ堪ヘ難カラシコトヲ知ラサルニ非スト雖トモ、朝命ノ重キ信認ノ厚キ敢テ之ヲ謝辞スルヲ得ス、自分頑鈍ヲ忍ヒテ靦然赴任シ既ニ三ヶ年ヲ經過ス、幸ヒ為指葛藤ノ憂モナク平穩ナル無事ヲ保ツコトヲ得タリ、務ノ幸榮何カ之ニ加ヘン、是レ菅ニ務ノ幸榮ノミナラス実ニ官民ノ幸榮ナリ、不肖務ノ頑鈍ヲ以テ此平穩無事タル所以ノモノハ、福井旧藩主正二位春嶽老公、智勇兼備忠直仁慈ノ器ヲ以テ、上王室ヲ崇敬スル天ノ如ク、下人民ヲ撫愛スル児ノ如ク、於是ヨリ声望夙ニ高ク、辱クモ至尊ノ公ヲ待ツ忠臣元老ヲ以テ目シ、又福井旧領民ノ今ニ至ルマテ公ノ仁徳ヲ慕フコト、恰モ乳児ノ慈母ニ抱カラル、カ如シ矣、斯クノ如ク忠愛ノ德望ヲ具シタル公ニ

シテ務ノ頑鈍ヲ愍ミ、屢務ヘ治民ノ教ヲ賜ヒ屢務ヲ戒箴シ、以テ其綱領ヲ指示シ玉フ恩惠ノ浅カラサルト、管下人民ノ善良ニシテ不良惡漢ノ徒ナク、常ニ幸ニ務ノ不肖ヲ憐ミ過誤アルヲ、之ヲ貸シ之ヲ補翼スルノ厚意トニ由ルモノナリ、務不肖ト雖トモ毫モ務ノ德望ト伎倆トニヨリ此一ヶ年間ヲ保チタルモノニ非スシテ、単ニ老公ノ教諭ト人民ノ善良ナルトノ二ツニ基ツキタルヲ知ル、今日老公務ニ書ヲ賜フテ置県ノ恩典ヲ祝シ玉フ、務百拝拝見公ノ常ニ意ヲ旧領民ニ尽玉フノ深キヲ感シ、不知涙ヲ垂ルニ至ル、庶幾クハ老公此後モ猶幸ニ時々教諭ヲ賜フテ務ヲシテ其方針ヲ誤ラシメサランコトヲ、務ハ公ヲ見テ恩顧ノ旧主ト見做シテ以テ日夜公ノ健全永寿ヲ祈リ奉ラントス

明治十五年二月七日

石黒 務謹呈

一二月十四日主上神奈川県下蓮光寺村江御狩として行幸ニ付、天氣為御伺御参内被遊候

一同日松平武聰殿御病氣之処御養生無御叶御逝去、本日谷中善性寺江御葬送ニ付、御見送・御代拝を兼山本武御差出シ相成候

一二月十五日例月の天機御伺として御参内相成候

一二月十七日松平篤郎殿御旧臣岩田厚美なる者ハ御旧臣惣代之名目

二而、客月篤郎殿・直巳殿江書面指出、該書面を族長幹事江御指出相成候二付、御同家御旧臣岩崎広勤外二名と公并松平定安殿・松平直哉殿御家扶宛二而書面式通指出候二付書面ハ広瀬家御紛議一件書類一纏二相成有之今午前御三方御寄合当御邸二而御協議、篤郎殿・直巳殿江左之御書付御申越相成

今般貴家御旧臣岩崎氏外二名より、別紙二通家扶共迄申出候趣致承知候、就而ハ別紙壱号ハ紙面之趣無相違旨家扶と答置候得共、第二号ハ先般御紙面ヲ以御照会御坐候趣意とハ齟齬候廉不尠、事實不能了解候間、夫々至急御取札之上明瞭御回答御座候様致度、此段申進候也

二月十七日

松平直哉

松平定安

松平慶永

松平篤郎殿
松平直記殿

一同日

(縁談整候二付御雇御免)

女中
里見ろく

右御暇相成候二付、御成規之通午飯之節御酒肴被下之、御方々様より頂戴物等有之候

二月十八日昨十七日副督部長東久世通禧殿御代理五辻安仲殿と左

之通御演説有之

去年十二月族長会之節勘ケ由小路殿より御申立相成候、従三位以上皇居中仕切御門迄乗車馬之儀、尚又宮内省江問合候処、明治十一年十二月二日太政官第三十六号布告二帶勲有位之輩、新年并紀元節・天長節参賀之義左之通被示候間、此旨布告候事

中略

一勲三等以上従三位以上ハ、皇居中仕切御門迄乗車馬を得ヘシ

但在官職之廉ヲ以参上之節ハ其官職之本文ニ従ふヘシ

一勲六等以上従六位以上ハ皇居御門台迄乗車馬、御車寄と昇降

ヲ得ヘシ

但在官職之廉ヲ以参上之節上二同シ

右之通二候二付、別段宮内省と御達有之候儀二者至兼、依之太

政官第三十六号布告之通御心得可有之、御族中江御通知可有之

段被申聞候事

右之通及御通知候事

族長松平慶永

一同日午前十時出門御参内相成候、昨十七日御還幸ありし故天機御

伺のためなり

二月廿日

拜啓来ル廿六日清国公使何張二氏及ヒ其随員ヲ招請シ、東両国中村楼ニ於テ饞宴相催候間、当日午後一時と御来臨相願候、尤

新任公使一列も請招之積也

一 会費金三円御持参之事

一 若シ指支之御方者廿四日迄幹事四名之内へ御報知可被下候、

尤御報知無之候ハ、御来臨之手当仕置候事

明治十五年二月廿日

駿河台袋町壱番地

重野安禪

麴町平川町五丁目十七番地

宮島精一郎

同 同 十四番地

巖谷 修

銀坐二丁目十一番地

岸田吟香

松平春嶽殿

一 同日午後三時左之方々華族会館へ御参会、委員会御開ニ相成ニ付

御相談

御発起人

松平慶永

伊達宗城

毛利元徳

池田章政

委員

勘ヶ由小路資生

万里小路通房

岩倉具定

鍋島直彬

池田徳潤

広橋賢光

一 二月廿五日十二時出門例月の天機伺として御参内相成候

一 二月廿八日巢鴨別邸へ毛利殿外二公を招待して観梅の小宴を開か

る、正二位様午前九時出門同邸江被為入、御来客及び御相伴人名

左の如し

毛利元徳殿

伊達宗城殿

壬生基修殿

御相伴

鈴木重嶺

佐藤 誠

一 三月一日徳川昭武殿麯香間詰御拜命ニ付、枕橋八百松楼ニ於テ御

同列御招請ニ付、午後三時御出門同楼江御出車相成候

一 三月五日例月の天機伺として午前九時御出門御参内相成候

一 三月七日

一 御肴料金三円

竹中淡叟

右淡叟義ハ元田安家御側御用人相勤候儀ニ而、正二位様御幼年之比ハ格別御世話も申上候事ニ而、御家へも御懇意ニ御館入致居候事ニ候、依而御家従佐野久御使ニ而御遣し相成候

一 三月八日岩倉具定殿・西園寺公望殿・広橋賢光殿、今般伊藤参議

欧行被命候ニ付随行御奉命、依而築地精養軒ニ於テ御別宴御開ニ

寄御会合、御同族五十名余御祝詞等も有之、夜ニ入御散会相成候

但シ会費御壱名金三円

一 三月九日岩倉右府公々御用談之旨ニ而、午前十時卅分御出門御同

邸へ被為入、御同客ハ東久世通禧殿・大給恒殿・西園寺公望殿・

伊達宗城殿・池田章政殿・毛利元徳殿・相良頼紹殿諸侯なり、段

々御内話も相済、御酒肴・御飯等被進御散会相成候委員会御相談

一三月十日昨夜下谷二長町嵯峨殿御邸近火二付、滋宮江為御機嫌御伺御参上相成候

一同日広橋賢光殿近々御欧行御発艦二付、御本邸ニ於テ御離杯御勸
二相成、御来邸相成候、但シ田辺良顕為御相伴参邸候事

一三月十一日祠堂ニ於テ秀康命の誕辰祭を執行せらる、祭主慶永公、
供饌七台

一同日午後二時出門正四位様御同道、浜町松平康民殿の邸に赴かる、
康民殿御年番にて秀康命の誕辰祭を執行し、祝宴を開かれし故なり

一三月十三日午前三時御側仕ふぢ分婉、御男子様御誕生益御機嫌克
被為在候、依之正二位様・御簾中様直ニ御産所へ被為入御対顔被
遊候、依而左之通御報知相成候

徳川達孝殿 細川護久殿 津軽承昭殿 広橋賢光殿
本多副元殿

右之外御旧臣御別懇之方へハ為御知御指出ニ相成候

福井表御家徒鈴木忠夫江以電報通知、直ニ御請旁御歎電報ヲ以申

上候

御誕生ニ付御神殿并ニ御庭稻荷・宗像両社江例外饌被供ニ相成候

一三月十五日例月の天機伺感昌のため参内せられす

一三月十七日

右御誕生様為御乳持御召抱相成候

(マ)
東葛飾郡村五十三番地
平民宮崎弥左衛門長女
宮崎さき 式拾三年

一同日

来ル三月二十日上野新築博物館開館式挙行之節、臨幸被為在候
間、同日午前九時惣代一名御参館有之度、此段及御案内候也
明治十五年二月十六日 農商務卿西郷従道

麝香問祇候御中

一同日

別紙之通委員会手續書正書御廻申条、御写取之上御廻送、廻尾
ハ御返シ可被下候也

三月十四日 万里小路通房
松平慶永殿 伊達宗城殿 毛利元徳殿

別紙

委員会手續

委員会ハ發起五名及ヒ其撰任シタル委員ヲ以テ組織ス、此会
同族ノ自今当ニ為スヘキノ事務ヲ商議記録シ、之ヲ問題トナ
シ会衆ノ議ニ付シ、尚ホ實際着手順序ヲ整理スルモノトス、
其手續左ノ如シ

一 此会ハ一週間ニ一度トス

一 毎会発起中ヨリ会長ヲ定メ本会ヲ提理セシム

但シ発起人悉ク決席スル時ハ委員中ヨリ会頭ヲ定ム

一 各委員意見陳述ノ際紛乱ヲ妨クル為メ先会長ト呼ビ、会長ノ

答ヲ待テ發言シ二人同時ニ發言スルヲ許サス

一 発起ニ於テ委員中ヨリ二名ヲ定メ記録ノ事ヲ委托ス

一 記録既ニ成ルトキハ会衆ニ其会期ヲ報告スヘシ

一 委員会ノ意見記録書ハ之ヲ会衆ノ議ニ付シ、然ル後委員ハ其

事件ノ実施ヲ幹理スヘシ

右明治十五年二月廿七日委員会ニ於テ議決スルモノ也

一 三月十九日日本日御誕生様左之通、御名目錄御家令武田正規御使ニ
而被進之

命名 ヨシアキ 慶光

明治十五年三月十九日 正二位勲二等源慶永撰

奉書三ツ折

出典

二字併二十一画巽出世上木性慶光 切婦納煌

此訓誉志安公載毛詩大雅皇矣章篤其慶載賜之光

明治十五年三月十九日 正二位勲二等源慶永撰

鳥子二ツ折 御花押木性三穴光 鳥子三ツ折

メ三包 鯉節一箱添被進之

一同断ニ付御式所様・康莊様・節子様、御二度御膳之節御定外御

焼物付御祝被遊候

一 奥表婢丁末々迄御赤飯・五色煮染・摘入汁被下相成候

一 兼咲婆江金三円、同人娘へ金壹円、御吸物・口取煮肴・椀盛・

焼物付御酒・御飯被下之

一 御臍之緒本日御祝落被為在候

一 奥女中 崎尾・駒野・ふち・つね・きく 金廿五錢ツ、御乳持五人江金

廿錢ツ、家婢・家丁江同拾錢ツ、敷 蛎壳町御邸岩屋政初御赤

飯代同拾錢、巢鴨御邸室田文六江同断金拾錢被下之

一 三月廿日

出産命名御届

ヨシアキ 私妾ふち

本月十三日午前四時分娩男子出生慶光与命名候、依而此段御届

仕候也

明治十五年三月廿日

宮内卿徳大寺実則殿

東京府華族

正二位松平慶永

右小石川区長江も御指出、別ニ左ノ明細書御添

出産御届

出生ノ月日 三月十三日

小児ノ姓名 松平慶光

男女第何 四男

出産ノ地名番 小石川区小石川水道町卅五番地

母姓名年齢 糟屋ふし 安政二卯年十二月二日生

父ノ生国 東京

父ノ族職業 東京府華族

医師或ハ産婆ノ姓名 産婆 鈴木兼咲

届人ノ住所姓名 小石川水道町卅五番地松平茂昭

明治十五年三月廿日 右 松平茂昭

小石川区長加藤治幹殿

出産命名御届

小石川水道町三十五番地華族正四位松平茂昭
養父正二位松平慶永 妾腹

四男松平慶光 ヨシアキ
明治十五年三月十三日生

右出生致候間此段御届申候也

明治十五年三月廿日

右 正四位松平茂昭
右地差配人 大塚義助 (明)

小石川区長加藤治幹殿

一同日福井有志者の結合せし会社に知憲会の称を撰ひ會員に与へらる、萩原縫請求せし故なり、會員へ与へられし御書面左の如し

知憲会

明治十五年三月廿日

松平慶永撰

知憲ノ出典ハ日本書紀、崇神天皇癸巳十年秋七月丙戌朔己酉、詔群卿曰、導民之本、在於教化也、今既礼神祇、災害耗、(皆脱)然遠荒人等、猶不受正朔、是等未習王化耳、其選群卿、遣于四方、令知朕憲云々、拜読再三大ニ感想ヲ引起セリ、客歳十月立憲政体ノ勅諭ヲ降シ玉フノ聖意ニ符合ス、今般旧土福井ニ於テ一ノ会社ヲ設ルト聞ク、会名ヲ余ニ請フ、余ハ喜欣曷ソ限アラン、知憲ノ二字ヲ会名トス、別紙ヲ送付ス、希クハ万世崇神天皇今聖上ノ勅諭ヲ遵守シ奉ランコトヲ、余モ不肖ト雖トモ日夜眷々服膺スル所ナリ

明治十五年三月廿日

慶永

一三月廿一日春季皇靈祭降雨参内せられず

一三月廿五日

来ル廿八日午後四時当御園内寒香亭江被為召候間、参内可有之候、此段相達候也

十五年三月廿五日

宮内卿徳大寺実則

正二位松平慶永殿

追而所勞差支等候二而不參之節ハ早々申出可有之、此段別達候也

御請

来ル廿八日午後四時御園内寒香亭江被為召候間、參内可仕御命之趣謹畏奉り候、命刻前參内可仕、此段御請奉申上候也

十五年三月廿五日

正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一同日午前十時出門、例月の天機伺として御參内相成候

一

学習院之儀ハ華族輩旨ヲ奉シテ設立スル学校ノ処、曾テ仁孝天皇京都ニ於テ学習院ヲ建テ、就学セシムルノ先志ヲ紹述シ、其名号ヲ与へ黽勉時習セシメ、皇祖ノ前烈ヲ恢張セン事ヲ冀図セリ、就テハ今後該院学科教則并授則共文部省ニ於テ直接整理可致候事、右之通御沙汰候事

明治十五年三月廿五日

宮内卿徳大寺実則

右之通宮内卿被達候間、督部長被達候旨御族中江無洩御通知有之度候也

十五年三月

華族会館

一三月廿七日左之者慶光様御乳持ニ御抱相成候

下谷区下谷二長町壱丁目十六番地
平民高橋藤十郎娘

てふ
二十二年

一三月廿八日去ル廿五日宮内卿被達ニ付午後二時過十分フロソット
御馬車

御出門御參内被遊候、本日御同參ハ伊達宗城殿・島津忠義殿・毛利元徳殿・池田章政殿・前田齊泰殿・前田利嗣殿・池田輝知殿也、四時前前田両公江宮内卿より御達之義有之、次ニ伊達・島津・毛利・両池田諸公江同御達有之、畢テ御庭桜花御拝見御陪食被仰付旨御達有之候事案内
仕人公御始寒香亭江御參上之処、無程聖上寒香亭江臨御、東伏見宮・伏見宮も御出ニ而岩倉右大臣も被參、寒香亭ニ而御一統御謁見、畢りて皇族御三方・岩倉・徳大寺二公公御始池田輝知殿迄御列床御庭梅花御拝見被仰付旨御達有之、再ヒ元之御席江御列座御陪食御頂戴

御料理 御吸物赤美膾
小鮎 煮肴 小鯛 口取物日ノ出蒲鉾・小鯛・玉子
路甘煮・栗さんどん

刺身鯛
貝のはしら 酢の物 鯛 御茶碗半餅

主上之御給仕者侍従、皇族已下雜掌、皇族之方へ天盃賜り次ニ岩倉右府公同断、宮内卿被達ニ而公御始御老人ツ、御前へ御進ミ御直ニ天盃御戴き侍従御酌、公江春嶽も不相替酒は不飲やとの勅問有之、例之通昔も今も下戸の第一と御答相成候へは御笑ニ相成り、伊達如何との御尋ニ付御答、此節ハ余り飲不申乍併十分御勸奨奉願候と申上、池田ハ如何中々上戸ニ而可有御座上戸の勅任官と奉考と申上ニ而、そんなら酔ふまで遣すとの仰せことあり、殊

の外御満足にてありし、池田輝知公迄相濟、東伏見宮御初皇族方御三人・岩倉公お池田公迄御酌有之、公御初にも御進ミ皇族方へ御酌被為在、畢而黄昏後ハ所々に篝火かゝやき伊達・池田両公二者毎々天酌、岩倉公二者天酌の数式拾余度斗にも及ひなんと御事なり、岩倉公謡を被為唱舞ひ給ふ、前田老公・池田輝知公・侍(西脱)従四辻公業公等も給ひ、洵に御懇篤之至御盛会之極ニこそと思召され、七時過御暇乞可被仰上と宮内卿の御達ニ寄、公御初御前江御進ミ其節公御始池田公まで御酌被仰上、聖上岩倉江一盃遣すとの御事ニて天盃を賜ひ御酌被成下、岩倉公五・六盃ヲ被戴、公江岩公より御送盃、公御受天酌、春嶽ハ少しついで遣すとの御事ニ而半分はかり賜り候を不殘御吞つくしありしを、春嶽ハよく勉強よく半分飲れたりとの御沙汰ニ付、違勅の罪を蒙り候而者恐入候間勉強頂戴仕りしと御請被仰上、伊達公・池田公にも数盃天酌、池田輝知公迄相濟、前田齊泰公謡ひながら被為舞、爰にて御暇乞被仰上御退去、御庭通りより御帰、岩倉公御初御一同宮内省へ御出頭、大書記官江御礼被仰上、九時前御帰邸

一公及諸公従宮内省御達之儀ニ付御同参、御二階下江御出頭之処徳大寺宮内卿より御達、客歳十二月建言之趣御嘉納被為在候ニ付而者本日梅花拝見被仰付候、且又前田齊泰父子も被為召、別紙之通相達候間心得迄ニ御一覽可有之候事

今般御用有之帰京被仰付候義ハ、昨年十二月廿七日正二位松平

慶永初八名連署献言之趣被聞召御嘉納被為在候、就而ハ其家之儀ハ旧諸侯第一之大藩たるを以て、右建言御趣意ヲ奉戴シ益華族之義務ヲ竭候様御内沙汰候事

但本文之義者父子心得迄ニ御内沙汰相成候義ニ付、遺漏不致様注意可致事

一四月一日鍋島直大様御家扶より報左之通

竹姫様御儀於伊国二月二日御分娩御女子御誕生、伊都イツ姫様卜御命名相成候旨

一同日神戸直益祖母梅仙去三月三十日病死候旨言上、右梅仙義者謹姫様御附ニ而阿部伊勢守殿江罷越、元花井と云老女相勤謹姫様御逝去之後直ニ謚姫様江相勤候事

花 壺把
 香料 壺門拾銭
 神戸直益

右靈前江為御手向被下ニ相成候

一四月二日御側仕ふち義産後本日出勤ニ付左之通被下之

金拾五円 御手許より
 金五円 御男子御出生ニ付御欣然之余被下之
 金五円 御簾中様より

式拾五円

赤飯 壹重
鶏卵 壹折

ふし宿糟屋

赤飯 壹重
鶏卵 壹折

岩佐 純

一 四月三日神武天皇御祭典降雨参拝せられす

一金千円

但四ヶ年ニ出金 壹ヶ年 金貳百五十拾円

右輔仁会設置ニ付為御補助御寄附相成候

一 四月四日慶光様御義本日午後二時御出門、上駒込村伊藤小右衛門

宅江為御預御移り、御家扶鈴木準道・女中佐藤崎尾・御乳持共御

同馬車、御家従沢木禄平馭者ニ而孰れも随従、午後五時帰邸、御

安全御着之段言上之

一金千疋

伊藤小右衛門

外ニ 御菓子代五百疋鯉節壹箱

綿銘仙 壹反

裏金巾 壹反

同人 妻

同断

同人 母

綿銘仙 壹反

同人 二女

金 壹円 中字筆 壹対

半紙 壹束

倅 錠之助

同人 三女

二男 鑑次郎

三男 太七

僕 壹人

婢 壹人

一金 壹円

一同

一 四月七日華族会館より左之通

乗馬射の春季御苑会近日施行候ニ付、乗馬并ニ競馬御望之人名兼而承知致置度候ニ付、左之件々御承知之上来ル十五日迄二本館へ各自より御申出有之度、此段御族中江御通知有之度候也

十五年四月七日

華族会館

一 競馬用馬匹ハ本館ニ而用意候事

一 自馬ヲ以競馬被致度御方者其旨御申出有之度事

一 洋鞍ニ而馬場乗被致度御方ハ、馬匹之都合ニ寄御貸付可申事

一 自馬ニ而和洋鞍馬場乗被致度御方ハ随意之事

一 馬匹御所持之御方者可成御牽携有之度事

一 有志馬場乗正午十二時迄、午後一時ヨ競馬執行之事

一 尚巨細御承知被成度御方者本館へ御出頭有之度候事

一 四月 (マ) 日本日第二土曜於部長局御例会之處、公御不例ニ寄松平

直静殿御代理御出勤之處、東久世通禧殿督部長岩倉公ニ代り左之通り御演達

第一 去ル十日於華族会館穂積陳重ヲ聘し貴族特權論講議有之候義ハ、諸君も御承知之事ニ而華族たる者大ニ心得ニ相成、明治廿三年国会被開候ニ付而も、自今其御心得無之候而者不相成事故、此講義ハ頗ル有益ニ有之候、依而精々御勉強有之候而他に御用有之候とも御繰合セ御出席相成度、追々陳重講義も可致故今後其他之講義ト相違ヒ大ニ準備之為にも相成候故、講義ニハ必御出席有之度と被申聞候事

第二 元老院議事之節華族之輩傍聴御方も有之候得とも、方今ハ出頭之御方も無之候、明治廿三年国会之準備ニハ華族之輩元老院議事之体裁幸御心得御見聞無之候而ハ不相成候間、以来ハ御傍聴可被成候、就夫御聴牌等ハ追而部長局方御達可申候
第三 先達而御渡申候華族銘鑑中、正誤・凡例・追加御渡申候間御配賦可有之候

第四 近日於華族会館同族親睦会相催候、尤費用ハ会館費之積りニ御座候

一 四月八日本日御成規之通春季祭御執行、御旧臣之面々参拜午前十時より午後五時迄百六拾人余罷出候、笹折御赤飯・煮メ・神酒被下ニ相成候、但御祭式等御例通ニ付略之

一 四月十日宮内卿より左之通

今般当省に於テ出板致候みともの数製本候ニ付、忝部下賜候間指廻候也

十五年四月十日 宮内卿徳大寺実則

みともの数 忝部五冊

右麝香間御同列江忝部宛御拝領相成、直ニ御請書御指出相成り、翌日為御札御参内被遊候

一 四月十二日本日慶光様為御宮参牛天神江御参詣被遊候、奥女中崎尾・御家従 佐野久・御乳持御供罷出候

牛天神江御初穂金五拾錢被供之

金五拾錢ツ、 奥女中忝統江

別段 金五拾錢御誕生之節格別 崎尾江
御世話申上候ニ付

金七拾錢御宮参御祝 ふじ

金貳拾五錢 御乳持

金五拾錢 思召ヲ以 佐野 久

(御赤飯 忝重 御預先 伊藤小右衛門
五色煮メ 同)

右夫々御取扱ニ相成候

一同断ニ付御方々様御二度御膳之節赤之御飯・御焼物附御祝被遊候、奥表忝統へ赤の御飯・五色煮染被下ニ相成、家丁・家婢江も同様被下ニ相成候

一同日

本年一月一日調、当省ニ於テ編製致候御略譜壹部ツ、御廻申入候也

十五年四月十二日

宮内省

翌日御参内右御頂戴之御礼被仰上候

一四月十三日

予而御通知申入候吹上御苑春季会之義、来ル廿三日乗馬并競馬候条、同族婦女子ヲ除ク之外子弟ニ至迄随意御縦覧有之度、尤乗馬有志之方ニ者同日午前五時迄ニ同御苑へ参集ニ相成度、当日雨天ニ候得者同三十日ニ執行候条、此段御族中江御通知有之度候也

追而御苑鑑之儀ハ当日半蔵御門ニ而御渡可申候、且射的之儀ハ御苑内該場廢止ニ相成候ニ付、向岡射的場ニ於て来ル廿二日午前九時ヲ執行候条、有志之方々御出場有之度候事
十五年四月十三日
華族会館

一同日午前九時出門御参内相成候

一同日

過日族長会之節、元老院議事傍聴之義申入置候ニ就而ハ、傍聴牌ハ当局ニ受取有之候間、参庁之向ハ御申出御請取可被成、此

旨該族中江可被致通知此段申入候也

明治十五年四月十三日

副督部長東久世通禧

追而傍聴牌華族会館ニ受取有之候間、為心得是又申入置候也

一同日

三条実美殿江

交肴壹折

右昨十二日被叙大勲位候ニ付、為御歎被進之

一四月十四日

小笠原長育殿江

沓下一タリス
巻煙草五箱

右者鉄道事件ニ付福井江御出発相成候ニ付、為御餞別被進之

一四月十五日

来ル十三日吹上禁苑春季乗馬会御苑御差支ニ付同日者延引、追而日限御通知可申旨御通達有之候

一四月十八日

宮内卿茲ニ皇帝・皇后両陛下ノ命ニ因リ、松平正二位閣下及令夫人・令娘、四月廿三日午後三時吹上禁園觀桜会ニ来臨アラン
コトヲ希望ス

当日雨天ナレハ之レヲ罷ム

フロツクコート着用

一 当日半蔵御門内吹上入口門ヨリ入り、広芝内角馬場西端ノ処

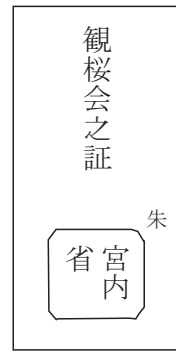
ニテ下車、退散之節モ同所ニテ乗車ノ事

一 兩陛下入御ノ後ハ各員退散勝手タルヘシ

一 婦人ノ外各員御園中ニ於テ日傘・鞭・杖或ハ襟巻・外套等ヲ

用ユヘカラス、ウワ、コート上着ハ此限ニアラス

一 夫人着服ハ掛・緋袴・白襟紋付、西洋服勝手次第之事



裏 此証札ハ吹上入口門參
面 入ノ節門部ニ示スヘシ

謹奉対答

宮内卿徳大寺実則閣下

聖上・皇后兩陛下ノ勅命ニヨリ臣慶永及荆妻等、本月廿一日午

後第三時吹上禁園ノ観桜会ニ参趨スルノ垂命ヲ蒙リ、臣慶永謹

畏謹奉、誠惶頓首々々百拝

明治十五年四月十八日 正二位松平慶永

一同日

香花料拾五円

康莊様御附 島津智恵造

右兼々病氣之処養生不相叶、本日致病死候ニ付靈前へ御手向被下

置、正二位様御誂文御香木 御方々様御誂文金壹円式拾五錢、正

四位様より御吊詞之御名刺、康莊様より御誂詞被下之智恵造ハ芦田

にして康莊様御乳持亀女之
所生島津又次郎養子トナル

一 四月廿日東京地学協会ノ

年釀金本期分受取人差出候間御渡シ有之度、尤年々一・四・七

・十月と四度之御出金ニ付、爾来ハ其都度御案内不致候ニ付、

兼而御承知被置御渡方相成候様、此段及御通知候也

明治十五年四月廿日

東京地学協会

一 四月廿一日予而御奉命吹上禁苑観桜会ニ付、午前十一時卅分御出

門フロツクコート御着服半蔵御門ノ御参入、角ノ馬場ヲ左へ竹門

外ニ而御下乗、処々御逍遙皇族・大臣・参議・諸省卿
勅任官・麝香間・外国公使三時三十分聖上

・皇后宮仮皇居御出門幸啓、紅葉御茶屋江御休息、夫ハ広芝ニ於

テ一統御謁見、立会場ニ於テ御立食賜ハリ、五時頃兩陛下紅葉御

茶屋へ入御之節、御一同御退散相成候

一 四月廿三日御親戚方を御招き宴会を開かる、春時ハ必ず御招きの

例なる上、過般正二位様勲章御拝受ありし故、御祝を兼ね開宴せ

られしなり、林左治衛来りて茶を点し、梯民也及び妻娘音曲を奏

す、御来客及び音曲左の如し

御不参

徳川達孝殿

徳川光子殿

徳川頼倫殿

鍋島筆子殿

松平慈貞院殿 外二 御相伴久留栄 田安家 たけ 八重

音曲

一 洞蕭 虚空独奏 一 箏 竹生島合奏・天下太平独奏 一 洞蕭 虚空
夕顔合奏・玉台合奏

一 四月廿五日午前九時出門、例月の天機伺として御参内相成候

一 四月廿六日

廿五日御暇願濟二付清崎神社江為社参、来ル五月二日当地出立
仕候、留守心得之儀ハ茂昭殿江依頼仕候、此段御届仕候也

明治十五年四月廿六日

松平直静

族長松平慶永殿

一 四月廿八日

来ル五月一日午前七時御出門、千葉県下下総国八街村辺ニ於テ
近衛諸隊演習為天覧行幸被為在候旨被仰出候条、別紙御休泊割
相添此段為御心得相達候也

明治十五年四月廿八日

宮内卿徳大寺実則

麝香間御同列宛

五月一日

午前七時 東京御発輦
御小休 西小松川
同 伊予田村

御昼

御小休

御泊

五月二日

午前六時

御小休

第一御覽所

第二御覽処

御昼

五月三日

午前五時

定設對抗運動所ニ而御覧

御昼

五月四日

午前六時卅分

近衛諸隊戰備行軍御親率

稻毛村

馬加村

久久田村

舟橋村

五月五日

午前二時五十分

近衛諸隊平時行軍御親率

御小休

小栗原村

舟橋駅

馬加駅

稻毛村

千葉街

千葉御発輦

川井村

八街村

同村

中野村

中野村御発輦

千葉街

千葉街御発輦

舟橋駅御発輦

御昼 市川村

御小休 松本村

御小休 西小松川村

御小休 向両国

還御

一 同日御親戚方を御招き開宴せらる、余興に手品師宝玉齋来る、御

招客左の如し

細川護久殿	御不参	細川宏子殿	御不参	細川護成殿	御不参	細川芳子殿
細川峰子殿		津軽承昭殿		津軽信子殿		心月院殿

一 四月廿九日在京旧臣三十余名を招き勲章御拝受の祝宴を開かる、

旧臣人名左の如し

本多副元	村田氏寿	堤 正誼	田辺良顕	橋本綱常
不参 岩佐 純	佐々木長淳	天方 道	水野行敏	石原庸雄
加藤 斌	佐々木千尋	南部広矛	不参 渡辺 弘	不参 能勢久成
加藤治幹	瓜生 寅	長谷部仲彦	出浦力雄	青木 修
不参 伊藤 輔	不参 大谷一枝	永見 裕	横井五百里	佐藤 誠
不参 田代 弘	不参 白井 久	不参 山沢 簡	朝倉謹爾	今村 坦
不参 福島敬典	小林太仲	不参 粕林之助		

一 五月三日鉄道会社創立御出願之件ニ付左之御指令有之

第六千七百十七号

書面願之趣ハ実地検査之上追而可及何分之沙汰旨、工部卿ヨリ指令有之候条、其旨可相心得事

明治十五年五月二日 東京府知事松田道之

一 五月五日午後三時卅分御参内、還幸恐悦被仰上、夫を御機嫌御伺青山御所江御参上相成候

一 同日慶光様御初職之御廉を以御内祝有之、奥表之面々江赤の御飯・摘入汁・煮肴・御酒被下置、家丁・家婢赤の御飯・摘入汁・御酒被下二相成候

一 五月六日

来ル十五日於靖国神社境内遊就館、東京地学協会第三年会相開候間、職員投票之儀同日午前第十時迄御差出、午後六時を御来会有之候事

但本会を御酒菓を供候間、御来否共来ル十一日午後第二時限、神田錦町学習院内東京地学協会事務所宛御回答有之度候也

明治十五年五月五日 東京地学協会
松平慶永殿

明治十五年五月十五日於靖国神社境内遊就館、東京地学協会
第三年会手続

第一 本日午後三時幹事集会、次期役員投票之事

第二 午後六時客員・賛成員會員參集

第三 社長殿下第三年会ヲ開ク旨ヲ報シ、本期年間本会ノ景況

ヲ演說セラル

第四 幹事本期年間事業ノ大要及ヒ事務ノ梗概ヲ報告ス

第五 書記會計ニ関スル詳細ヲ報告ス

第六 資金取締役本期間本会資金ノ管理報告

第七 次期職員選挙結果報告

第八 新旧職員交代ノ報告

第九 賛成員會員ヨリ旧職員江之謝詞

右畢りて小宴会

一 同日

東北鉄道会社創立規則修正之儀、兼而御發起諸公ヨリ御談シニ

付、私共修正不取敢為見本三拾部上刻為致候ニ付、別冊御廻シ

申上候間、御熟覽之上思召御座候廉ハ尤御附箋被成下、可否共

明後八日午後二時迄ニ事務所江御報知御座候様仕度奉存候也

五月六日

東北鉄道会社
創立事務委員

松平茂昭殿

松平慶永殿

東北鉄道会社規則部

一 五月八日

日本橋区元大坂町三番地宮橋謙五郎妹

兼
式拾五歳

右者慶光様御乳持てふ願之上御暇被遣候ニ付、跡御抱ニ相成候

一 五月九日

大学校教師穂積陳重ヲ聘シ、エツシエル氏適用政理学講議依頼

致度旨有志者ヲ申出候ニ付、別紙之通毎月二回第壹・第三木曜

ヲ定日トシ午後第四時ヲ講議相開候條、御有志之方ハ御出場有

之度、此段御族中江御通知之上御取纏メ、来ル十七日迄ニ御申

出有之度、此段更ニ申入候也

追而本月ハ第三土曜日十八日ヲ相始候事

十五年五月九日

華族会館

別紙^{独逸人}アツシユル氏 適用政理学講

教授穂積陳重

一 五月十日前田利鬯殿御来邸、正四位様・本多副元殿御同判ニ而鉄

道事件ニ付工部卿佐々木高行殿江御参訪、委縷御直話相成候処、

同氏終始了知、尚今般大鳥圭助江北陸道実地検査トシテ出張被命

候ニ付、工部卿ヲ圭助江委細申聞候間、両三日之内工部省江御出

向、圭助江御相談有之度旨被申聞候趣ニ候

一 五月十二日福井県大書記官多賀義行檢事江転任ニ付、御家令武田

正規御使ニ而交肴老籠為歛御送相成候、右多賀氏跡神奈川県少書

記官妻木狷介福井県大書記官ニ被仰付候

松平直哉 松平直方 松平康民

松平直静

一五月十四日正二位様午前八時三十分御出門、竜池会頭佐野常民氏
招ニ付フロックコート上野公園地博物館江御参向、米人(ノロ)ヘロノサ氏

当今旧領江御暇願濟旅行中ニ付、帰郷之上出場之有無可申出
旨留守心得申聞候、此段申添候也

美術上講義御聴聞、一時頃折詰午餐饗供、再同氏講議有之四時過

明治十五年五月十六日 廿六類族長 松平慶永

御帰邸被遊候、福岡文部卿・九鬼文部少輔・細川司法大輔・渡辺

華族会館幹事御中

元老院議官兼検事・東久世通禧卿・嵯峨実愛卿・伊達宗城卿・宗

重正殿御参会也、松平確堂卿・佐野常民殿・山高信離殿亭役なり

一五月十七日

一五月十五日正四位様本日内閣江御用召ニ付御参閣相成筈之処、御

眼病ニ付正二位様御代理トシテ御出向之処、於伝達所谷森内閣書

記官より左之御書付御領受

去ル十一年一月ヨリ十四年十二月迄有馬小学校資トシテ金六拾

円指出、為其賞木盃壹個下賜候事

右御書付御領受相済木盃御受取ニ相成、宮内省宮中祇候江御礼被

仰陳御退出

松平慶永殿

一五月十六日華族会館江左之通御届相成候

本月九日以第十二号御通知有之候大学教師穂積陳重講議被開候

ニ付、一族有志出場之人名取纏可差出旨拝承、夫々通知候処左

之通ニ御座候

松平慶永 松平茂昭 松平定安 松平直致

追而所蔵無之向も其旨本文期限迄ニ可被申出、尚所蔵之向者同
省官吏直ニ其家ニ就キ取調候趣ニ付、是又為心得申入置候也

府県

今般当省ニ於テ古来船舶之制度取調候ニ付、其管下社寺或ハ旧
家旧船手・船奉行等相勤候輩或ハ其他ニ於テ、別紙目錄書類并
ニ現品所蔵致候旨有之候ハ、府県ニ於テ借上ケ現品之分ハ繪

図ニ相認め、別紙日限之通当省駅通局江郵便ヲ以可指出、此旨
相達候事

明治十五年四月四日

農商務卿西郷從道代理
内務卿山田顕義

別紙

一内外船舶之図

一同船具之図

一同航路之図

一右二関スル書類并法律書

一同造船仕法書

一同航海日記

一同海上交戦演習等ノ図

一河船之図

一同船具之図

一右二関スル書類并法律書

一河海漁船之図

一同造船并仕法書

一右二関スル書類并法律書

一遊船ノ図

一旧公方將軍大名御召船ノ図

一同船具之図

一古代海賊船之図

一右二関スル書類并戦方書等

一右諸船舶具航海等ノ發明人ノ小伝并書類但海賊同断

一外国交易航海ノ書類

右各古代ヨリ慶応三年迄ノ分、明治十五年九月三十日迄ノ分

一五月十九日

来ル廿二日午前八時より青山御所ニ於テ番能御催相成候間、御
所望ニ候ハ、御推参不苦候、御一列江も御伝へ可有之、此段申
入候也

十五年五月十九日

皇后宮大夫万里小路博房

右触示候間申入候、早々御廻達、来ル廿一日迄ニ周尾〆御返シ
可給候也

中山忠能

麯香間御同列

一同日鉄道事件ニ付左之面々去る十五日福井出立本日着、直ニ参邸

御延見相成候

中川祐順

中根牛介

萩原 縫

林藤五郎

一同日旧松平隱岐守殿松山藩御室貞寿院公御年回御相当之趣過日御

通知

維明治十五年壬子五月廿一日、愚弟正二位勲二等松平慶永、誠

恐誠惶頓首百拜、謹奉告姉君貞寿院殿尊靈、伏惟レハ日月如流

早クモ二十三年ヲ經過シ本日其年回ノ法祀ヲ執行セラル、現ニ

今存スル兄弟ハ女三人ニシテ男ハ弟一人ナリ、幸ニ此法祀ニ会

スルヲ得タリ、特ニ往事ヲ回顧スレハ、既ニ距今二十九年前即

安政元年四月、三田御邸ニ参趨シ姉君ニ対面シ談話数次酒肴ヲ

饗セラル、其歡娛今ニ忘レス、後ニ考フレハ此日ハ姉君ト永訣

ノ日ナリ、弟追思ノ情何ソ堪ヘン、姉君ノ尊体ヲ前ニ視ルカ如

シ、弟年齒半白ヲ超ヘ耳順ニ近シ、涙々霑襟ヲ聊奠香資御墓前

時ノ花ヲ捧ケ以テ追遠ノ情ヲ表ス、姉君靈アラハ尚饗

一同日英公使案内状

表面 女帝ノ天長節

女帝陛下ノ公使及ヒハークス令娘ハ、本月卅一日水曜日午後四時三十分ヨリ同十時迄延遼館ニ於テ庭園会、松平慶永閣下ノ会

同ノ歎娛ヲ希望ス

回答ヲ賜フ幸甚

東京

貌列顛皇帝陛下ノ公使館ニ於テ千八百八十二年十一月廿日

回答ヲ希フ

浜御殿内遊歩 午後五時ヨリ七時迄

舞踏 同 八時ヨリ十時迄

ヒズエキセルレンシイ ヨシナガマツダイラ

御回答

貴書拜見候、先以益御安重奉珍重候、然者貴国皇帝陛下之御降誕日、即来ル卅一日午後四時卅分ヨリ十時迄、延遼館ニ於テ御一会御催ニ付、参館候様被仰下辱次第奉存候、何等差支無之候間参上方可奉謝候、謹言

明治十五年五月廿四日

正二位松平慶永

大英国公使

サークルリーエス君閣下

一五月廿日慶光様為御種痘九段坂上大野松齋出張処へ被為入、松齋施術申上候、御家従佐野久御召連相成候

一同日両公御催主ニ而鉄道事件ニ付有馬道純殿・土井利恒殿・小笠原長育殿・本多副元殿・村田氏寿・加藤斌・佐々木長淳・伊東伯哉・小野立誠御招集ニ而、中川祐順・中根牛介・萩原縫・林藤五郎・内田甚右衛門等出頭、福井表該事景況御聞取ニ相成候、晚餐御供進相成候

一五月廿一日前日御報知相成候貞寿院様公御姉君故松平隱岐守殿御室 式十三回忌御

法事、於三田濟海寺御執行ニ付、午前九時御出門御参拝、御経中御詰被遊候、御拝濟御墓所へも御参拝、御香奠金五拾錢御墓所江御花被供之、元同君江相勤候女中華清・真昌両尼へ御菓子料金三拾錢ツ、思召ヲ以被下之候、御法事濟御同家様方御菓子及式十五菜、御料理ニ而御膳被進ニ相成候

一五月廿二日

一金貳千疋

御家扶 鈴木準道

右今般福井表佐佳枝之神社・孝顕寺・運正寺江御一族御代拝卜シテ被遣候ニ付被下之、正二位様・御式所様方別段之思召ヲ以御羽織・御袴・手帳 佐野久御使ニ而被下ニ相成候、例之通御酒肴被下之

一金九拾円

往復為旅費 被下ニ相成候 廿三日発京

一 五月廿四日工部大輔大鳥圭介氏北陸道鉄道敷地為見分出發二付、前日武田正規・加藤斌被遣、猶該事二付御依頼筋御含メ相成候

一 五月廿五日午前九時出門御參内、青山御所へも參上せらる

一 五月廿六日於南鍋町東北鐵道会社事務所、兩公御始前田利嗣殿・前田利鬯殿・有馬道純殿・土井利恒殿・本多副元殿其外加越委員之面々も集合、本日之御談案者同会社江後藤象次郎氏(三)ヲ御頼可相成との事二而、孰茂御可決不日正二位様及前田利鬯殿御出向之事二相成候

一 五月廿八日日本日皇后宮御誕辰二付午前九時御出門御參内、午前十時過於便殿、參議・宮内省勅任官・麝香間祇候・宮内奏任官皇后宮江謁見、畢而御酒肴御戴

一 五月卅一日宮内省ヲ

来ル五日午前九時御出門、千葉県下総国印旛郡種畜場辺江御遠乘二而行幸被遊候旨被仰出候間、為心得御休泊割添相達候也

明治十五年五月卅一日 宮内卿徳大寺実則

御休泊割略之

一 六月二日秀康命御大祭二付、正二位様御祭主正四位様副御祭主御成規之通御執行、村田氏寿・永見裕・天方道・中川祐順陪侍

一 同日午後三時ヲ前田利鬯殿御出、後藤象次郎殿相見得、公・前田公被仰合、鐵道事件二付御頼談有之、御茶菓・御酒肴御饗応有之候

一 六月三日慶光様御種痘之義二付九段坂大野松齋出張所へ被為入、同人相伺候処御一顆御感染、是二而御子細無之旨申上之

一 同日御簾中様御妹喜久姫様式拾三回御忌御祭事二付御墓所江金五拾錢、奥表物中へ為御供養金參円被下置候

一 同日

来ル六月十日土曜日小石川植物御園小石川久堅町ニ於テ園会相催度候二付、午後二時ヲ御来遊ヲ希望候、拜具

明治十五年六月三日 福岡孝悌

松平春嶽殿

御返答

来ル六月十日小石川植物園ニ於テ園会被開候二付、午後第二時ヲ来遊之垂教ヲ忝フス、是慶永之幸榮何ソ之ニ加ヘン、必ス命時參趨拝顔鳴謝スヘシ、敬具

明治十五年六月四日
松平慶永
福岡文部卿殿

十一時築地精養軒ニ而御送別会相催候条、御差繰御参集被下度
存候、此段及御通知候也

一六月五日

六月七日
松平慶永殿

伊達宗城

来ル十二日午後九時工部大学校ニ於テ、有栖川二品親王并御息
所両殿下ヨリ夜会被相催候間、同日時御光臨被下度、此段両殿
下之命ニ寄御案内申進候也

一同日

一金千疋 鶏卵壺箱添

大野恒徳

明治十五年六月五日 宮内大書記官林董

右者慶光様御種痘無御滞被為濟候ニ付、御使者を以御送相成候

正二位松平慶永殿

同 令夫人

一六月九日

来ル十二日午後九時於工部大学校、有栖川二品親王及御息所両
殿下夜会被為催候ニ付、同日時該校江参上之垂命ヲ伝ヘラル、
慶永及荆妻幸慶之至謹承仕候、命時参趨可仕此旨両殿下江御上
申有之度、御請旁呈一書候也

来ル十四日午後五時学習院ニ於テ浅野全権公使、鍋島式部頭赴
任ト帰朝トヲ祝スル為メ宴会相催候条、御同意之諸君者午後四
時卅分同処江御来会相成度、尤御来否とも来ル十二日中種恭へ
宛御回報有之度、御相談旁申進候也

明治十五年六月九日

松平 勇

六月九日

鍋島直彬

宮内大書記官林董殿

松平正二位

立花種恭

一同日午前例月の天機伺として御参内被成候

一六月十日午前九時出門、御参内相成候、昨九日御還幸ニ付天機を
伺ハれしなり

一六月七日

兼而御咄合仕候浅野氏送別会、時日等問合候末来ル十一日午前

一六月十一日特命全権公使浅野長勲殿近々伊太利亜御赴任ニ付、築

地精養軒へ御招請御別宴御開ニ相成、公及伊達宗城殿・蜂須賀茂
韶殿・毛利元徳殿・池田章政殿・黒田長伝殿^(薄)・津軽承昭殿・亀井
茲監殿被仰合、御別盃御勸ニ相成候、夜二入十時過御帰邸

一六月十二日左之御断書御差出相成

今十二日於工部大学校、有栖川宮夜会被為催候ニ付参上可仕之
処、夜来所劳罷在参趨難仕候、此段御上申之程御依頼候也

明治十五年六月十二日

正二位松平慶永

宮内大書記官林董殿

追伸拙者不快ニ付荊妻参上不仕候也

一六月十三日御家扶鈴木準道義、福井佐佳枝廼社御初へ御一族御代
拝出発候処、本日午後四時帰邸致候

一同日

一金千貳百円

右者日本鉄道会社十五年六月第一回御振込金御出金相成候

一六月十五日午前九時御出門、例月の天機伺として御参内相成候

一六月十六日

御安全令賀候、陳者来ル廿六日芝紅葉館ニ於テ同族懇親会相催

候ニ付、御同意之諸君者午後第三時方御来臨被下度、此段御案
内申入候、乍御手数御族中江も御通知之上、御諾否御取纏メ来
ル廿三日中会館江宛御報被下度、此段及御依頼候也

追而会費ハ御老人前金壹円五拾銭宛当日御持参被下度
一廿四日後御不参御申出之方も同様会費申受候

十五年六月十六日

発起人
補助酒井忠彰

醍醐忠敬

京極高典

松平慶永殿

一同日有栖川宮御家扶方

当宮様来ル十八日午前第八時新橋発之汽車ニ而御発途御治定相
成候間、此段及御通知候也

六月十六日

有栖川宮
御家扶

松平慶永殿
御家扶中

一同日

来ル十八日二品熾仁親王露国江御発航相成候ニ付、麝香間祇候
之内名、当日午前七時卅分フロツクコート着用新橋停車場ニ
於テ御見送可有之、此段相達候也

十五年六月十六日

宮内卿徳大寺実則

右被触候、長谷殿順番ニ付申入候処承知ニ候、早々御廻覧、周

尾を可廻給候也

六月十六日

中山忠能

同日

来ル廿日午前九時ヨリ青山御所ニ於テ番能御催ニ付、御所望候

ハ、御推参不苦候、御一列江も御伝可有之、此段相達候也

六月十六日

皇太后宮大夫万里小路博房

右被触示候間申入候、早々御廻達、来ル十九日中周尾を御返シ

可給候也

六月十六日

中山忠能

一六月十八日有栖川熾仁親王露西亞江御発船ニ付、午前七時御出門、

御馬車フロツクコト新橋停車場^(車)江御出向之处、大臣・参議・勅

任官・内閣宮内奏任官其他諸省奏任華族方参集、其内熾仁親王御

来車二階御休息所江被為入無程汽車江被為召、一統御見送申上ら

れ候、但シ停車場中請付所取設有之、御名刺御指出、大臣・参議

・勅任官・麝香問詰之方々者直々御謁見相成、皇族ハ横浜迄御送

り相成候、浅野全権公使江も御対顔御告別被為在候

一六月十九日故橋本左内・当橋本綱常母病死之处、本日於浅草本願

寺葬式執行ニ付、為会葬御家令武田正規御差出ニ相成候

但病中も屢々御尋被下、度々被下物も有之候

一同日小笠原長育殿御家扶闋明信参上、長育殿御事於福井県准判任
御用懸御拜命^{月給}賜候旨御吹聴御使トシテ罷出候

一同日前記酒井忠彰殿御発起ニ而、来ル廿六日於芝紅葉館御同族御
懇親会御開、御同意之方ハ午後三時ヨリ御参集可相成旨御一族様
方江御通知相成候处、御一同御断と相成候ニ付、忠彰殿及醍醐忠
敬殿・京極高典殿へ御宛御断書御指出ニ相成候

一六月廿日有徳院様御正忌ニ付上野御霊屋へ御参詣、御花老筒被供
之

一六月廿四日

去ル十四日宴会諸費御分頭金弍円七拾八錢五厘、幹事ニ於テ立
替支払候分学習院庶務局ニ依頼致置候条、右金員来ル卅日迄ニ
同局江御送致被下度、此段及御通知候也

十五年六月廿五日

鍋島直彬

松平信定^(正)

立花種恭

松平慶永殿

追而本文諸費明細仕訳相添可申之处、御多人数之儀ニ付手数ヲ
省き学習院庶務局へ備置候条、御序之節御一覽相成度、此段為

念申入候也

一 同日左之通

梨本菊麿王今般東京江御移住之義被仰出候二付、本日麻布市兵衛町壺丁目拾三番地御邸江御着相成候旨、同宮御附^〇申出候間、此段為御心得申入候也

明治十五年六月

宮内書記官

追而御同列江御通達相成度候也

一 六月廿六日両公鉄道仮事務処江御出席、本日三条公御邸へ両大臣御出席、山田參議・山県參議・松方參議・芳川工部少輔列席、中川祐順・長谷川準也出頭、東北鐵道会社事件御尋委細言上、從五時到十二時候趣、両公御始前田利嗣殿・前田利鬯殿・有馬道純殿御同席、中川・長谷川出頭言上之次第委細陳上致候、御帰路後藤象次郎宅江被為入、鐵道事件段々周旋尽力之旨御挨拶被仰入、象次郎不快二付執事迄被仰置御帰邸相成候

一 六月

申啓、陳者兼而互二致心配候福井県下改租不服之各村落事件、石黒県令不容易御尽力ニ而御上申之処、今般審査可相成旨御指令有之趣、去ル廿七日妻木大書記官来邸ニ而内々被相咄実ニ満悦之至致大安候、定而足下等も同様降意欣喜と致遥察候、然

ルニ審査村々之外数百ヶ村苦情も彼是有之候処、是迄県官及郡長等ニ而厚説諭ヲ以鎮静候趣致伝聞候、此度之機ニ投シ又々彼是苦情再発致候而ハ不容易事ニも立至リ、夫而已苦心罷在候、此事たるや袖手傍觀スヘキ時ニ非ス、各足下兼而心配被致居候得とも当県令江篤卜内談被致、右等之困難不生様万々御注意尽力有之度、偏ニ該県之為所熱望候、余カ区々之鄙衷亮察可給候也

明治十五年六月

松平慶永

青山 貞殿 千本久信殿 毛受 洪殿

徳山繁樹殿 萩原 縫殿 長谷部協殿

林藤五郎殿

追而徳山・萩原両氏者職務之義ニ候得者別而尽力有之度、其他福井有志之部分ニ於テも精々注意心配希望候也

一 六月廿七日鐵道事件二付出京相成候萩原縫・林藤五郎・内田甚右衛門本日出立、中根牛介義ハ去ル廿三日帰県候事

一 同日午後新任福井県大書記官妻木狷介御招請御酒肴御饗応有之、

村田氏寿・田辺良顕・中川祐順出席妻木狷介ハ神奈川県書記官^〇転任候事

一 六月廿八日蛸壳町御邸地八幡社造営世話人田口芳之助・鈴木岩吉・四方田茂兵衛・高橋為三郎・久我三蔵・山田卯助・岡倉由三郎

・鶴見平七・宇都宮長兵衛・荒井清兵衛・井川大次郎罷出、今般八幡宮棟上ニ付参上、紅白餅壹重・鯉節壹箱献上、依之為御挨拶金三千疋被下之、正二位様御臨視、厚意之段御沙汰有之候

此段申進候也

但来ル五日中午ニ御答無之候ハ、御出席と見做シ可申候間、当日御欠席ニ而も会費可申受候、右費用ハ金貳円前後也

七月三日

松平忠礼

一六月廿九日午前九時御出門、梨本宮東京江御移住ニ付為御歛御参

武者小路実世

上相成候、右御帰路鳥井坂九番地岡本健三郎邸へ被為入、過日来

鍋島直彬

東北鉄道事件ニ付御頼談相成義も有之二付、該御挨拶被仰入候

鍋島直大

一七月一日

同 御令聞

大日本水産会發起人方同会主旨及会則等送付有之、同族有志之方者加入ヲ希望候旨申出候ニ付、御有志之方ハ本館へ御出頭右書類御一覽有之度、此段御族中江御通知有之度候也

七月一日

華族会館

来ル七日午後四時於芝紅葉館、長岡夫婦及柳原妻君帰朝祝宴被開候ニ付、来会之垂示敬承候、該日ハ先約有之無抛用事何分繰合セ出来兼御断申入候、妻義者過日来咳嗽強未夕全快ニ至兼候故不克出頭候、此段申入候也

明治十五年七月四日

松平慶永

一同日祠堂に於て浅子命の正忌祭を執行せらる、祭主正二位様、供饌七台、正四位様御不快出席せられす

鍋島直大殿

鍋島直彬殿

武者小路実世殿

松平忠礼殿

一七月二日大館尚氏藤島神社用向ニ而出京

一七月三日

一七月五日午前九時出門例月の天機伺として御参内相成候

来ル七日午後四時ヨリ芝紅葉館ニ於テ、長岡護美・柳原前光妻

君共帰朝為祝賀蒞会相催度候間、御同志ニ候ハ、御来集被下度、

一七月六日午前九時出門、上野寛永寺家定將軍の靈前を参拝せらる、

徳川殿二十五年忌法会を執行せられし故なり、香奠金二百疋両公より外に花壺筒供へらる

赤心会御中

一 七月七日福井県大書記官妻木狷介家族引纏赴任、明日出發ニ付為

御暇乞參邸候ニ付御逢相成候

仙台平袴地 壺反
燒海苔 五箱

福井県大書記官 妻木狷介

右明日日出立ニ付、御家扶鈴木準道御使ニ而御贈り相成候

一 七月十日

一 書陳啓、薄暑之節愈御安全令賀候、扨ハ各足下兼而承知も可有之、東京旧臣有志輩之發起ニ而本貫子弟ノ為メ輔仁会ト云一社ヲ設立、目論見之義於当家も大ニ賛成候、近來東京有馬道純殿・土井利恒殿・小笠原長育殿を初各地方同県人ニも陸續加名同意者多く、至今実ニ無比之幸福不^(マ)過^(マ)こゝと存候、右ニ就而ハ此会ハ越前ハ根本也、故ニ其根本とする越前現在住士民ニ於テハ猶更協同尽力無之而ハ、仮令東京及各地方同県有志者ハ劳配周旋するとも其好結果ヲ難得、加之水泡ニ属シ可申とは是ノミ於老拙苦心候、右ニ付士民・平民を不論、人材を教育する精心を振張シ有志有力者東北無隔意互ニ相議シ、一層之共力ヲ以到底好結果ヲ得候様致度候、老拙区々之鄙衷ヲ被体、万端宜及御依頼候也

明治十五年七月十日

松平慶永

一 同日礼井命御忌月祭ニ付、御成規之通被供物御親祭被遊候、鍋島筆姫様ニも被仰進御列座相成候

一 七月十一日

兩殿江(画箋紙 三卷ツ、
羊羹 一箱ツ、

權少教正

大多迺俊山

右者今般越前福井運正寺住職被申付候旨ニ而為御吹聴參上、献呈之御逢相成候

一 同日昨年七月十六日勲二等御勲章御拝受、御内祝トシテ本日午前奥表一同并二家丁・家婢へ御酒肴可被下之処、当節悪疫流行、依而御酒・鰯・御料理代頂戴、一同御坐敷ニ於テ戴キ御手酌被成下候、御令扶従及中根新江御料理代り金壺円ツ、八木十九吉・尾崎涼・室田文六・持田弥市・大塚義明・中島直藏・大野素久江同七拾五錢ツ、家丁・家婢・中島弥吉へ同五拾錢ツ、御門番式人同断、御乳持五人江金三拾錢ツ、被下ニ相成候

一 同日慶光様御箸揃御祝義御執行、御近例之通御方々様御二度御膳之節、赤の御飯御焼物付・摘入汁御祝相成候

一 七月十二日前記御勲章御戴為御祝儀、今夕本多永夢・間宮八十子

・山沢静寿・荷心院・向山牧光院・芳野・八十瀬・小野田・田辺
・梶野・公御乳持はる、御子様方御預先保坂篤右衛門・田崎惣左
衛門・保坂伝蔵・伊藤小右衛門御肴五種・御酒・飯被下置候

一七月十三日中元ニ付諸向被進被下御近格ニ照準、夫々御取扱ニ相
成候

一七月十五日徳川家達様御家扶お

昭徳院様家茂將軍拾七回御忌御法事本月廿日江御取越御執行之儀、

兼而得貴意置候処当日都合有之、八月廿日御正当之御振替相成
申候、尤刻限其外過日申上候通ニ御坐候条、宜御上申被下度如
斯御座候也

明治十五年七月十日

徳川家達様
御家扶

一同日例月の天機伺として御参内相成候

一同日

謹呈密啓候、陳者懇願之儀有之実ニ戦兢戰愷之至恐入候得共、
不得止閣下兼而之御懇命ニ付不憚忌諱内々奉申上候、右者十四
代將軍法号昭徳院 本年拾七回忌相当、来ル廿日於芝靈屋法祀執行仕
候由、家茂儀ハ徳川家数年廢絶之上洛応勅命乍弱年為国家尽力
も仕、且ハ静寛院宮御配偶之儀ニも候得者、何卒以特別之叡慮

来ル廿日法祀執行之節、靈屋江勅使侍從被指向候様奉願度奉存
候、若シ此儀不被為適尊意候ハ、御取捨被下度、御同意被下候
ハ、御尽力之儀伏而奉懇願候、実ニ僭越之罪難逃、此儀ハ御有
恕奉希候、閣下之御多忙ヲ不顧上申候也、恐惶謹言

七月十五日

松平慶永

对岳公閣下

七月十五日徳川家達様御家扶お来ル七月廿日御法祀御執行八月廿
日御繰替相成候間、其旨御密書ヲ以岩倉公江御通告相成候

右御酬書

昨日両度御懇書徳川故家茂年回ニ付御内願之趣委曲致承知候、
小生ニハ御尤と存候得共、何分思召も伺候義容易ニ難運卜存
候折柄、更ニ八月廿日迄延期之趣被示候ニ付、幸ヒニ時間も
有之候儀精々心配可致、猶御模様分り次第御内報ニ可及、此
段御請迄如斯候也

七月十六日

具視

○他御用ニ付伊達宗城殿・池田章政殿御連名御呈書之節、御返事
序ニ追而慶永殿江申入候故將軍家茂年祭ニ付御内談之事、今日
参勤内評候処侍從を以云々可被行哉ニ粗被決候、此旨及御答候、
早々、以上

一七月十六日悪疫流行ニ付前記御夜食被下、御直シニテ被下ニ相成
候、奥表・中根新金五十銭、中島直蔵・天野五平・尾崎凉・室田

文六・持田弥市・大野素久・大塚義明江三拾錢ツ、家丁・家婢
へ式拾錢ツ、被下之

一七月廿日越前敦賀松原神社武田耕雲齋初ヲ祭ル之儀ニ付、香川敬三より申出
候義有之、公御直書ヲ以金百円御寄附相成候

大暑之節愈御安全奉賀候、陳者先年御咄有之松原神社碑石今般
落成之由ニ而摺物沓葉以旧臣堤正誼御廻送被下忝次第、定而御
配慮不容易事と感佩候、就而ハ曾テ御内約申候通釀金百円乍些
少寄附致度候間、宜御配意ヲ煩度奉存候、依而及御依頼候也
金百円

右松原神社江寄附候事

七月廿日

松平慶永

香川敬三殿

一七月廿三日督部長東久世通禮殿ハ

明宮御儀明廿三日午前七時三十分中山従一位邸御出門、当分青
山御産処江御引移被遊候旨被仰出候条、此段相達候也
十五年七月廿二日 宮内卿徳大寺実則

一七月廿四日午前九時出門御参内天機御伺、青山御所明宮御殿江も
参上せらる、昨日明宮殿下青山御産所へ御遷坐ニ付、御歎被仰上
候なり

一七月廿五日例月の天機伺として御参内相成候

一七月廿八日酒井忠篤様奥方様於鶴岡御安産御女子様御誕生、於鑑
様卜御命名之旨為御知有之

一同日

射的之儀ニ付而者既ニ聖上ニも度々天覽被為遊、御誘導之思召
誠ニ難有次第ニ有之候、就而ハ別紙規則書之通今般協同射的会
社設立候処、各国公使等ニ於テモ陸続加入有之、依而ハ内国貴
顕之方々ニ於テモ射的之儀ハ兎も角、右会員ハ追々御加入相成
候様致し度、左も無之候而者聖上之思召ト申迄も無之、各国公
使等ニ対シ内国之振不振ニも拘り候哉と苦心罷在候儀ニ付、一
応申入候間御加入之程偏ニ希望候也

共同射的会社 発起人

松平慶永殿

追而承諾有無来ル八月十日迄ニ宮内侍従局江御返答可被下候
右御答

今般協同射的社設立之処、聖上ニ而射的天覽等有之、御誘導被
為在候ニ付規定書相添会員ニ相成候様御報知之旨致承知候得共、
素ハ射的之義ハ不案内ニ付加入之望無之候間、此段及御報知候
也

明治十五年七月

松平慶永

宮内省待從局 共同射的会社發起人御中

回顧スルニ茲二十二年明治四年十一月辱クモ衆華族勅諭ヲ蒙ルニ感シ、有志ノ輩六・七名相謀リ通款ヲ名トシ、同族ヲ鼓舞シ勤勉ノ力ヲ尽シ以テ勅諭ニ奉答セントス、時某等モ亦將サニ同主義ヲ以テ為スアラントスルニ際シ、遂ニ合シテ一トナリ、六年初テ一社ヲ創立シ次テ七年會館ノ規模ヲ立ツ、是ニ於規則漸ク成リ公撰役員ヲ設ケ親王殿下ノ臨席ヲ奉請スルニ至ル、會館ノ榮ト云ヘシ、然レトモ時未タ熟セス、所見一定セス、議論風起シ勢ヒ不振、因テ館事ヲ董督シ同族ヲ勸奨セラレンコトヲ大臣ニ奉請シ、館事復タ改進シ庶務更張ス、八年十月天皇陛下ノ親臨ヲ辱フシ勅諭ヲ蒙ル、其諭旨ニ曰、華族一般此館ニ從事シ學術ヲ研精シ云々、又一般途ニ就カシムルコトヲ大臣ニ勅諭シ給ヒ、當時借用スル會館工部省所屬ノ地所家屋ト年々金三万円ヲ下賜セラル、実ニ華族ヲ眷顧シ玉フノ叡旨天恩優渥ナル感激ニ堪ヘス、同族ノ光榮之ニ過ルナシ、尽ク勅諭遵奉ノ旨ヲ誓ヒ皆力ヲ斯ノ館ニ致ス、大臣臨席新撰章程ヲ布キ衆同族ヲ区分シ、公撰ヲ以テ議員ヲ設ケ、職員ヲ置キ同族ヲ管理シ事務ヲ分掌ス、是ヲ以テ館事大ニ興ル、後九年五月宮内省發令アリ、東西京ニ部長局ヲ設ケ職制ヲ下附セラレ華族ヲ六部二分チ、督部長・副

督部長以下ノ職員ヲ置カレ一切ノ事務ヲ管掌セシメ、依テ部長局・會館・学校等各費ヲ区分ス、天皇・皇后兩陛下学校ニ親臨シ玉ヒ辱ク懇篤ノ勅諭ヲ蒙リ校名ヲ賜フ、前後親眷ノ厚キ寵榮ノ深キ実ニ感荷ニ堪ヘサル処ナリ、此時ニ閣下督部ノ任ヲ担ヒ同族ヲ統括シ学校ヲ改良シ銀行ヲ創立シ局務拳ツテ訓令行ハル、同族ノ庇陰ヲ受ル又多シ、実ニ閣下ノ力ニ是憑ル、豈謝セサルヘケンヤ、然而時遷リ勢變シ自由ノ説行ハレ民權ノ議起ル、人々自主ノ氣性ヲ生シ民情又昔日ニ非ス、恭ク惟ミルニ客歲國會開設期限ノ詔命ヲ發セラル、奮タニ政本ノ良否ニ関スルノミナラス亦人情時勢ヲ察シ玉フニ是レ因レリ、爾來増々人民ノ政權ニ関与スル意思ヲ發起スル此時勢ニ於テ、四民ノ標準トナルヘキ同族其為サント欲スル果シテ如何、国体ヲ維持シ名分ヲ明ニシ以テ皇室ヲ補翼シ聖恩ニ奉答スル所以ノ方ヲ講究セスンハアルヘカラス、嘗テ會館更張ノ際某等天顏ニ咫尺シ奉リ宸眷ヲ蒙リ親諭ヲ辱フス、曰此館ニ從事セヨ、勅語猶耳ニ而シテ會館ヲ顧ル役員学校子舎ニ寓処シ、從事スヘキ日途ナク只名ヲ存スルノミ、亦告朔ノ餼羊ニ同シ、往事ヲ顧ミ毎ニ聖諭ヲ恐惶措ク所ヲ知ラス、冷汗背ニ溢ル、今ニシテ遵奉ノ実ヲ拳スンハ焉ンソ名分ヲ正スヲ得ンヤ、且夫民情漸ク自立振作ノ方ニ向フ、同族モ亦宜シク奮發自立ノ志ヲ以テ骨子トスヘシ、凡依憑スル者ハ独立ヲ得ス、独立セサレハ他ヲ補佐スル力ナシ、自立スル者ニシテ始テ其勢ヲ有スヘシ、爾來我輩部長局ノ保護ヲ受ルコト

厚ク慣ヒ常トナリ殆ント依憑風ヲナシ、富有ノ者ハ唯其令ヲ仰キ貧困ノ者ハ只其救ヲ望ム、又自立振作ノ気性自ラ薄シ、是今日ニ於テ便ナラサル者ナリ、宜ク時勢ニ從ヒ管理奨励ノ方向ヲ轉シ、該局ヲ閉チ宮内省中一課ニ付シ、金員貸借等會館ノ名ヲ以テ引繼難キコトハ宮内省ノ処分ヲ希ヒ、其他同族管理ノ事務ハ一切會館ニ移シ、自立ノ志ヲ奨メ振作ノ氣ヲ励マセ、勅諭遵奉ノ実ヲ挙ケ以テ名分ヲ明カニスヘシ、而シテ同族ニ賜フ該局ノ地所家屋ヲ改メ會館トシテ賜リ、該局費万五千円モ復旧シテ永ク會館ニ賜フヘシ、果シテ然ラハ現在會館ノ費用歳額七千円ト合計シ一ケ年ニシテ二万円有余ノ經費ヲ支持スヘシ、之ヲ以テ我国體ニ裨益アルノ書ヲ出版シ、或ハ道德ヲ旨趣トスルモノヲ訳出シ、漸次拡充シテハ名教ニ関スル雜誌ヲ公布シ、旁ラ學術上講究討論ノ課ヲ設ケ、且議員ヲ撰定シ、時ニ臨ンテ同族ノ所見ヲ上達ス方法ヲ立テ而旧章程ヲ斟酌改定シ、役員ハ公撰トナシ大事ハ會議ニ決シ、衆望ニ背カス協賛以テ事ヲ謀ラハ資力今ニ衆心一二帰セン、閣下又管長ヲ以テ衆同族ヲ管理教指セラレハ、昔日ノ論旨遵奉ノ効初テ顯レ、我輩從事スル目的ヲ得テ以テ聖恩ニ奉答スル道是ヨリ起リ、国ヲ裨益シ皇室ヲ補翼スルノ鄙誠或ハ其万一ヲ達スルコトヲ得ン、某等時勢ノ變遷政體改革ニヨリ頗ル感激スル所アリ、自立振作ノ効ヲ立テ寵命ニ負カス、華族ノ名ヲハツカシメサランコトヲ欲シ敢テ心腹ヲ吐露ス、冀クハ閣下某等ノ鄙誠ヲ昭察上達セラレ、英断ヲ仰テ改革

処分アランコトヲ、若シ鄙誠達セスンハ某等実ニ為ス所ヲ知ラス、恐惶惴歎ノ至ニ堪ヘス、敬白頓首

明治十五年七月

松平慶永 蜂須賀茂韶 伊達宗城 毛利元徳

島津忠義 細川護久 黒田長溥 鍋島直大

山内豊範 池田章政 長岡護美 前田利嗣

藤堂高潔 松浦 詮

督部長岩倉具視殿

一八月一日

思召を以虎烈刺葉壹瓶下賜候条、用法書添御廻申進候也

十五年八月一日 宮内書記官

松平正二位殿

○コレヲ病ヲ発する時、医師の来る迄ニ施すへき心得

第一 暴瀉する時ハ、コレヲ葉を二十滴或ハ三十滴、少許の水

に和し、十分時或ハ十五分時毎に用ゆへし四・五歳前後の小兒ニ

り十五歳までの者ニ者七滴ハ十滴を与ふべし

但吐又ハ下痢止む時ハ直ちに後腹を病むへし、假令吐下止すとも十回以

上ハ連服すへし

第二 手足少しく冷れハ温湯にて半身浴を行ひ、後温に着々発

汗すへし

第三 嘔吐はけしくして葉及ひおさまらざる時ハ、氷の細片を

頻りに与ふへし

第四 嘔吐気心下苦悶等あるものにハ、胃部又ハ下腹に芥子泥カラスを貼すへし、其方芥子末三握を能く混合、酢にてかたき糊の如く練り、六・七寸四方ほとの木綿の切にのびし、皮膚紅くなりて痛を覚ゆるまで貼し置くへし凡十五分時間より二・三十分程まで

御請書

思召を以虎烈刺葉下賜候条、用法書御添御廻送被成下、難有奉拝領候也

明治十五年八月一日

松平慶永

宮内書記官御中

一 八月七日宮内卿より左之通

明八日勲章授与式執行ニ付、為列立午前第十時大礼服着用参内可有之候也

十五年八月七日

宮内卿徳大寺実則

勲二等松平慶永殿

一 同日

一金五拾円

右悪疫流行ニ付、小石川区人民衛生費之内江出金候事

八月七日

小石川区長加藤治幹迄御指出ニ相成候

一 同日東久世通禧殿より左之通

一 同日康莊様御儀本日午前六時過御発車、箱根温泉へ被為入、随従笹川童門・中根新被仰付候但三週間之御予算之事

一 同日海上保険会社惣会ニ付、為御代理鈴木準道致出頭候

一 八月三日滋宮御降誕ニ付為恐悦御参内被遊候筈之処、依御所勞御

断相成候

一 八月六日於表御座之間、輔仁会會員會議有之

琳・狩野・支那南画(邦人の作)・菱川・宮川・歌川・長谷川・円山派等之善画可有之候間、此際所蔵品ヲ不惜出品有之候様致度候間、当局江御照会有之度候、就而ハ其族管中右所蔵之向者可被申出、此旨族管中江無洩通知可被致、依而別紙手續キ并取扱振

内規壹葉相副、此段及御通達候也

明治十五年八月

副督部長東久世通禧

松平慶永殿

追而公品撰択之為メ蔵品主ノ都合ニ寄而者協議之為メ其家江掛員差出候間、然る時ハ日限報知有之度、又別紙内規則中推問又ハ打合セ等之儀も候ハ、本掛リヘ直チニ照会相成候様致度旨農商務省ヲ通知候間、為心得添而申入候条、凡而不審之廉者直チニ本掛リヘ照会可被致候也

一 列品ハ上野公園内絵画共進会場中ニ別室設ケ、会場ハ午前九時ニ開キ午後四時ニ閉スル事

一 出品者事務所ニ於テ守衛ヲ置キ又巡查ヲシテ巡行なさしむと雖トモ、猶出品主より特ニ守衛人を被差出も差支無之事

一 出品有之向ハ九月十五日比迄ニ、其目錄本掛江回送可有之候事但臨時又追加出品之分ハ其時々通知ありたし

一 其出品ハ飾箱ニ不放程之大幅を除ク之外、硝子箱内ニ陳列するものとす飾箱ハ事務所ニ設置クヘシ

但数品一時ニ出陳又ハ箱数ニ取纏め出陳をも望モノハ、目錄送致之時其旨御通知あるヘキ事

一 出品陳列之順序ハ惣而其出品之數と其種類とを思量し、本掛リニ於て出品日割をなし、前以蔵品主ヘ通知すヘシ

一 右通知之日割に寄事務所ニ差出さるヘシ、事務所ニ而ハ預リ証書を交附すヘシ、右日限を経過セハ前ニ交附する処の預リ証書

を為持請取人可被指出、右出品ト引替返戻すヘシ

但事務所該出品を預リ置事を不望向、日割中日々開場前持參、閉場之際持歸りても不苦、然る時預リ本証書ハ交付せさるヘシ、日々仮証書を交付(す脱)ヘシ

一 陳列日割ハ予メ五日ト定メ日割を為すと雖トモ、此日數出品し難き品ハ初出品之節幾日間出品すヘキ旨申出あるヘシ、然れば其日限経過セハ返戻すヘシ

一 出品中特優にして画工の手本となるヘキもの、考証となるヘキ分ハ、写真又ハ縮写して有志者頒賦する事有るヘシ

但右を嫌ふものハ予め其断あるヘシ

一 前条之場合ニ於てハ写真等をなす為メ、陳列日子の外五日間事務所ニ預リ置クヘシ

一 出品主の都合によりてハ請取人事務所より派出すヘシ、然る時ハ先ツ受取人より仮証書を入置キ、後日事務所より本証書を交付すヘシ

一 旧地在国之品ニ而之レカ為メ此際取寄ラル、向者、該運送費ハ事務所ヨリ償却すヘシ

但シ本文場合ニ於テハ予メ御協議有之候事

朝鮮暴動想像論説 正二位勲二等源慶永述

今度朝鮮動乱ニ就テハ、我政府ノ容易ナラサル御苦惱ハ勿論世上ノ論説囂々タリ、然レトモ世ノ論説ヲ擯斥スルノ心ナシ、惟余ハ反対ノ臆説論弁ヲナシテ今後ノ景況ト照シ合セテ見ンコト

ヲ希求ス、コレハ尤モ他人ニ示スヘキニ非サルナリ、扱京城ニ設置セシ我公使館焼払ヒ暴徒ノ猖獗ヲ極メ、花房公使ヲ始メ狼狽苦戦シテ遂ニ濟物浦ノ小舟ニ乘リテ英船ノ助力ヲ受ケ、又ハ暴徒ノ王宮ニ迫リ王妃・太子ノ妃ヲ鳩殺シ、総理大臣を始若干人ヲ屠殺セル、於朝鮮ハ一大事ノ變動ハ不俟論ナリ、特ニ大院君ノ国政ヲ掌握スルノ權ヲ有セリト云、コレヲ以テ見レハ今般ノ暴動ハ大院君ノ謀計ニシテ暴動ヲ希望スルノ煽惑セシメタルニ相違ナシ、左スレハ全クノ斥和論党トモ申シ難シ、我公使館ヲ焼払ヒタルモ一時ノ事ニシテ、斥倭一点ヨリ生スルモノト信セリ、其目的トスル所ハ国王春哲盛ナルヲ以テ大院君ノ撰政ヲ解キ、閔兩氏外戚ノ權ヲ振張シ大院君ヲ閉居セシムルト云所ヨリシテ、大院君ハ大ニ不平心ヲ抱キタル所ヨリシテ、彼兩妃ヲ鳩殺シ貴官ヲ殺シ自ラ政權ヲ掌握スルコトナレリ、此後來ノ結局ヲ考フルニ必ス彼ノ政府ハ平和ノ局ヲ結フナルヘシ、余カ数経ノ意想ヨリシテ見レハ、今般花房公使再京城ニ来テ談判請ヒタルナラハ、彼ハ速カニ承諾シテ平々凡々ノ和熟ノ談判ニ及ヒ、国王モ元ノ如ク王位ニアラシメテ、焼払ヒタル公使館ノ建築モ、又負傷者及殺戮シタル人々ノ家族ヘモ、手当金其他殊ニコレハ快ク償金ヲ抛ツヘキヤモ分リ難シ、朝鮮各港ヲ開キ其他前ニ超越シタル特別ノ待遇ヲ与へ、我公使及日本国ノ帝ヲシテ満足セシムルノ交際ヲナサン、朝廷ヨリ日本ヘ公使ヲ置クコトマテヲ処置スヘシト思ヘリ、花房公使ノモシモ京城ニ入ルコト

ヲ拒絶スルナレハ夫迄ノコトナリ、却テ朝鮮兵ヲ出シ護衛シ京城ヘ安心シテ入ル様ニ待遇ヲ与ヘルナルヘシ、此原由ハ磐城艦ノ歸ル花房ヨリノ電報、大院君ヨリ東萊府ダイアンドフニ命シテ右ノ事ヲ釜山ノ我領事館ニ報知セシム、由テ府伯ハ親ラ之ヲ通知セル事柄ヲ見テ知ルヘシ、必スヤ大院君ノ奸佞謀策ニアラス、又釜山我領事ヲ始メ怠ラシメテ討殺セントスルノ大院君ハ、我私憤ヲ晴ラシタル以上ハ却テ各国ノ外交ヲ盛ンニシテ、文明開化ノ域トナサンスルノ精神ナルヘシ、日本ノ人々ハ邪推多クシテ怨惡ノ論ヲ吐クヲ務トス、余ノ考フル処ハ然ラサルナリ、此考証ヲ云ハンニ、我国徳川ノ末路攘夷論盛ンニシテ、歴史ニアル如ク孝明天皇ノ御宇屢勅詔アリテ攘夷鎖国セシムルノ命アリ、滿天下攘夷論ノミ行ハレタリ、以今考フレハ眞実ノ攘夷論ヲ行フモノハ十分ノ八・九ニシテ、堂上方ナドハ攘夷論ナレトモ其実ハ斥徳川ノ心志ニシテ、徳川政府ヲ仇視シテ顛覆スルヲ希望スルモノ多シ、又ハ眞実ノ勤王家ハアレトモ、勤王攘夷ヲ奇貨トシ利ヲ貪ルモノ少ナカラズ、外面ヨリ見レハ其區別ヲ弁シ難シ、徳川氏ハ老中始メ旗本モ朝廷ヲ輕蔑視シテ云ク、朝廷ハ攘夷ヲ奇貨トシテ徳川氏ノ政權ヲ奪ハントノ素志ナリト明言セリ、朝廷ハ頻リニ攘夷ノ勅ヲ下シテ、徳川氏ヲシテ不都合ヲ生シムルノ計略ヲナセリ、当時外交ヲ盛ンスルノ徳川氏ノ目的ハ、朝廷窃ソカニ賛スレトモ、表面ハ専ラ攘夷ノ説ヲ吐ク、戊辰十二月八日王政維新ノ勅詔アリシ後岩倉公曰ク、攘夷ハトテ

モ行ナハレヌ故支那・和蘭ノ如ク交際ヲナスニ如カスト云ヘリ、大原重徳ハ眞実攘夷家ナルヲ以テ岩公ニ抗スル屢ナリ、遂ニ英仏公使ノ参内ヲ許ルシ紫宸殿ニ謁見シ維新前ニ比スレハ反対ナリ、維新後速カニ神戸在留ノ西洋人及各国公使ニ令シテ曰ク、徳川氏ハ政權ヲ返セリ、王政復古自今朝廷ヲ政府トシテ条約其他新政府ヨリ通知シ外交ヲ取扱ト被仰出タリ、各国公使モ甚以懷疑惑新政府ノ指揮ニ従ハスト云ヘリ、後ニ京都へ参内シタル後英国公使サー・ハルリイ・パークスヨリ各国公使へ説諭シテ判然セリト云、東萊府伯ノ通知モコノ類ナルヘシ、於神戸土州ノ兵隊仏人ヲ斬殺セリ、是レ眞ノ攘夷家ナリ、可憐コトナラスヤ、此兵隊ハ維新後朝廷攘夷論ヲ廃止スルヲ知ラス、維新前朝廷ノ御主意ヲ捧戴シテ斬殺セリ、コレ兵隊ノ罪ニアラサルナリ、是時朝廷東久世通禧ヲシテ談判、兵隊ヲシテ仏人ノ前ニ置キ刑罰ヲ与フ、夫ヨリシテ文明開化ノ域ニ進歩セリ、岩公決テ心竊ソカニ攘夷ヲ擯斥シテ開港外交ヲ希望スルノ念アリ、然レトモ表面徳川政府ノ顛覆シ一新後始メテ此素念ヲ発露シ玉フナリ、大院君モ亦然リ、心竊ソカニ攘夷論ヲ不喜シテ外交ヲ希望スルコトト信認セリ、暴徒ヲ煽惑シテ擾乱ヲ為スハ、斥和論ナケレハ此事不被行ナリ、故ニ斥和論ヲ主張スルハ暴徒煽動ノ器械ト言ハサルヘケンヤ、コレヲ以テ私憤ヲ霄ラサンカ為メニ王宮ヲ襲撃スルコトトナレリ、日本公使館ヲ焼払ヒタルハ大院君ノ計策ニアラサルヘシ、暴徒ハ土州ノ兵隊ノ如ク大院君攘夷論ヲ奉

戴スルモノトス、今ヤ大院君政權掌握ノ後ハ必然外交ヲ盛ニシ斥和論ヲ消滅セシムヘシ、果シテ然ラハ前述ノ如ク公使ノ待遇及其他ノ景況ニテ知ルヘシ、東萊府伯ノ報知ハ実ニ虚亡ニアラスシテ大院君ノ眞実ナルヘシ、我政府偏トヘニ韓廷ヲ怨悪セスシテ、余カコノ思想オモ斟酌セラレテ採用スルモ可ナルヘシ、余此一言ヲ述ヘテ後日ノ景況ニ照サンコトヲ

明治十五年八月八日於小石川邸

朝鮮暴動想像論説第二号

朝鮮国ハ季子^(李)ノ末裔ニシテ支那ノ属国タリシ、其証拠ハ今ニ至ルマテ朝廷ニテハ清服ハ着セス漢服ヲ用ユ、去レトモ年号ハ清国ノ年号ヲ用ユルヲ以テ知ルヘシナリ、乍併該国ハ全ク清属トモ云難シ、朝鮮ト条約ヲ結合シタルハ日本ヲ以テ嚆矢トス、此時日本国ニテハ該国ヲ以テ独立国ト見做シテ条約セルナリ、故ニ清国ニテハ日本ノ朝鮮ヲ独立国ト見做シタルヲ甚タ不平ヲ抱キタル心決テ消滅セサルナリ、琉球ト云ヒ朝鮮ト云ヒ清国ノ属国ヲ日本ノ恣ニスルヲ不喜ナリ、今般韓米条約ニモ清国ハ属国ノ名称ヲ冠ラシメンコトヲ望ム、米ハ第一条ノ属国ヲ廢棄スルヲ欲セリト云、如此ノ事情ヨリシテ、朝鮮ノ暴動ハ竊ソカニ清国ノ暗ニ彼暴動者ヲ煽動セリト云者アレトモ、決シテ支那ヨリ煽惑スルニハアラサルナリ、世論ハコレヲ以テ、今般ノ暴動ヨリシテ再ヒ日韓ノ談判モ日支ノ終ニ争論ニ帰スト云、コノ掛念ハ決テアルヘキ筈ニ非サルナリ、吾想像論説ヲ云ニ、支那即

清国政府ハ飽クマテ朝鮮ヲ属国ト明言セリ、属国ノ乱賊ヲ鎮圧平定スルハ素ヨリ本国ノ義務ト云ハサルヘケンヤ、夫故ニ清政府ハ一万五千ノ兵ヲ出シ已ニ国堺ヲ經過ストアリ、恐ラクハ市虎ノ説ニハアラサルヘシ、実事ナルコトヲ信ス、報知新聞ニ掲載スル所ニヨレハ、清国公使カ外務省ニ出頭シテ、属国ノ朝鮮貴公使館ヲ焼払ヒ兵隊等ヲ殺戮スル等、実ニ日本ニ対シテ不相濟事也、依テ朝鮮政府ヨリシテ幾分カノ償金ヲ日本ニ呈セシメ日本政府ヲ満足セシメントス、故ニ談判ハ難応ト云ヘリ、真偽保証セストアリ、是レ実事ナラン、コノ事タルヤ清政府ハドコマデモ属国タルヲ世界ニ顯示セント欲スル企図ナルヘシ、日本政府ハコノ事ヲ決テ満足スルノ理ナシ、花房公使ハ京城ニ入テ韓政府ト談判シ、条約国ノ義務ヲ尽シ終ニ償金ヲ直接ニ該政府ヨリ出サシメンコトヲ直接談判ヲナシ、償金ヲ呈スルノ念慮アリトモ清年号ヲ用ヒ是迄清ノ保護ヲ受タル恩モアリ、清政府ニ抵抗スルコト不能、不得止シテ清政府ノ指揮ニ従ヒ直接談判ヲ謝絶スヘシ、コレヨリシテ花房公使直接談判ヲ停止シ、該政府ノ談判ヨリモ清政府トノ談判ニナリ、終ニ日支ノ葛藤ヲ生スルニ至ルヘシ、過日岩公工前田・松平両氏等東北鉄道事件ニ付上申スルコトアリ、其時朝鮮ノ事件ハ格別ノ事ニモナシ、支那ノ關係両三日立候ハ、確報アリ、必可分ト被仰タリ、コノ一言ト新聞等ノ上ニテ想像論ヲコ、ニ陳述ス

明治十五年八月十一日

朝鮮暴動想像説第三号

憶測ヲ以テ論スル、清水館即我公使館ヲ暴徒等襲撃シ灰燼トナスハ、窃ニ大院君ノ指示ナリト新聞紙ニ記載セリ、コレ偽ナラスシテ真実ナラン、是レ大院君ノ最巧ミナル奸謀ナリト云ヘシ、此事タルヤ大院君ハ素ヨリ攘和党ノ一人ナレトモ、今般ノ挙動ハ攘和党ヲ主トシ、公使花房始メヲ妬忌シ攘斥スルノ本意ヲ達セン為メニ、公使館ヲ襲撃スルノ密々ノ指示ヲナシタルモノニ非ス、兇暴ノ徒朽腐米ヲ渡シ或ハ一月ヨリ兵士ノ給米ヲ交附セス、夫ヨリシテ彼ノ徒忿怒シテ大院君ニ謀レリ、大院君時機ヲ得タリトテ暗ニ満悦スル所ヨリシテ密謀ヲ示セリト、新聞ニ詳悉スルヲ以テ略ス、コレヲ以テ見レハ大院君ノ如キハ政權ヲ掌握スルノ熱望ヨリ外ナラサルナリ、此事件暴動ヲ引起サント思ヘトモ其辞柄ナク、直ニ王宮ニ迫リ王宮ニ乱入セハ忽叛者トナレリ、所謂国事叛ナリ、世界ヘ対シテモ離叛者ノ声名ヲ帯ヘリ、コレモ得策ニアラス、幸大院君ハ攘和党者ノ一人タリ、攘和ヲ以テ暴発スレハ叛者ノ名ヲ免ル、ヲ以テ得策トス、故ニ大院君ハ密示シテ公使館ヲ襲撃セシム、夫ヨリシテ王宮ニ迫リ王宮乱入ノ暴挙ヲナセリ、是レ大院君ノ正鵠ニ中リタル所以ナリ、今般ノ事件ヲ考フルニ、結局ハ如何トノ問題ニ対シテ論センニ、朝鮮人ノ内ニモ正義党アリ、已ニ国王ヨリノ内命ニテ釜山カ元山津ヘカ逃走隠匿セシメ、今ヤ拳兵時機ニアラス、日本国ヘ依頼シ日本ノ兵ヲ以テ暴徒ヲ剪除討罰セシメ、日本在留ノ韓人モ、

日本ノ兵ヲ拝借シ共ニ不戴天ノ仇ヲ報セント三条公ニ請願セリト、韓国党又正義党ノ忿怒実ニ感佩ニ堪ヘサルナリ、夫レ故ニ日本ヨリ兵端ヲ開クハ、韓国正義党其外屠殺サレタル人々ノ親族ナドニテハコレヲ昼夜希望セザルベカラス、素ヨリ政府ヲ討ニアラズ、暴徒ヲ討ツ迄ナリ、如斯兵乱起ラハ、必スヤ韓国ノ人民ハ日本ヲ仇視セスシテ、多クハ日本人及韓国勤王即正義党ノ方ニ人望ヲ属スヘシ、果シテ然ラハ助ケ寡キノ至リハ親戚コレニソムクノタトヘノ如ク、暴徒ニ帰スルハ十分一モアラサルヘシ、左スレハ大院君ハイクラ威ヲ張ルモ、孤立ノ勢トナリテ頗ル困難ヲ極ルナルヘシ、夫故ニ兵端ヲ開クハ大院君ノ好マサル所ナリト信認セリ、大院君ハ長ク権力ヲ保有シ、猛威ヲ政府ニフルハセンコト最モ望ナルヘシ、攘斥モ開化モ我カ都合ノ宜シキヲ以テ国是トスルナルヘシ、新聞ニ云^{朝野}前略大院君ノ外交ヲ好スル旨ヲ宣言シタルトノ事ナリ、去レハ朝鮮人ハ日本公使ノ要求ヲ諾シ、且ツ暴徒ニ関シ相当ナル償金ヲ出シテ穩便ニ結局スヘシト、ヘラルト新聞ニ見ヘトアリ、果シテ然ラハ、大院君ノ掌握権ヲ以テ長ク保タンニハ外交ヲ盛ンニスルノ目的ナリト被考タリ、左スレハヘラルドノ如ク穩和ノ結局ニ至ルヘキヲ信ス、大院君ノ奸佞ナル得策ニシ朝鮮人民ノ為ニハ大ナル不幸ト云ハサルヘケンヤ

八月十三日

慶永述

一 八月十日細川護久様ヲ為御知、奥方宏姫様御安産、御男子様御出生被為在候旨

一 八月十四日猶姫命十年御正忌ニ付、午前八時御出門天徳寺江御参詣、御墓前江御菓子料金五拾錢被供之

但シ御祭式之義ハ、幸姫命御祭典^{来ル}廿一日之節御合祀ニ相成候但シ奥表^ハ丁婢末々迄、為御供養御菓子被下之

一 八月十五日康莊様御儀暑中御学事御休暇ニ付、箱根辺^ハ武州地方西ノ方大雄山・高雄・川越辺御巡廻、本日御帰邸相成候

一同日午前九時出門、例月の天機伺として御参内相成候

一 八月十八日岩倉具視公^ハ

一 昨日御念書何も致承知候、少々御不快之趣御保養專一存候、然者朝鮮事件御懸念之趣御尤、右之為メ宮内卿^ハ御文通ニ被及、一 昨日御同列七・八名江以思召御内沙汰有之候間出席、伊達ニ而も御聞被下候ハ、御分明と存候、扱又故家茂年回本月廿日芝増上寺ニ於テ執行云々御内示、早速宮内卿伺定之上以特別当日^(符)勅使被差向候旨御決定候、今明日之内徳川家令江御内意相相成候筈ニ有之候、此段御答迄如斯候也

八月十八日

具視

松平慶永殿

一同日

官省院庁

非役従三位及勲三等以上之輩、平常天機伺等二而参朝之節車寄
門迄乘馬被差免候条、此旨相達候

明治十五年八月十八日

太政大臣三条実美

府県

非役従三位及勲三等以上之輩、平常天機伺等二而参朝之節車寄
門迄乘馬車被指免候条、非役有位帶勲章士族・平民可相達、此
旨相達候事

明治十五年八月十八日

太政大臣三条実美

一 八月十九日

拝啓然者来ル二十日故將軍徳川家茂拾七回忌法会於増上寺執行
二付、香花料トシテ金百円以勅使被下候筈ニ候、此段為御心得
得貴意候也

十五年八月十九日

宮内卿徳大寺実則

正二位松平慶永殿

追而勅使被指遣候刻限等、徳川家打合之上可取極卜存候、此段
為御合申添候也

右二付直ニ御請書御差出ニ相成候

一同日徳川家達様御使御家從滝村小太郎罷出、明廿日昭徳院様御法
事之節勅使被差立候旨、宮内省より御達有之ニ付御吹聴被仰進候
旨

一同日明廿日御宗家昭徳院様御法事、芝御靈屋ニ於テ御法事有之、
依而天璋院様・実相院様江御生菓子壺折被進之

一 八月廿日十四代將軍徳川家茂公即昭徳院殿十七回御忌御相当ニ付、於
芝増上寺御靈屋御法事御執行、依而午前七時御出門御参詣

一同日明廿一日幸姫命御祭典ニ付、海晏寺御墓前江左之通り御備相
成候

正二位様

御式所様〇

榊壺対

正四位様

御式所様〇

時の花壺対

康莊様〇

時の花壺筒

右幸姫命御墓前江御備相成候

一 八月廿一日幸姫命御正忌五年祭・猶姫命十年祭・稚細石媛命五年
祭・朝子命三年祭、孰れも御合併御執行ニ付、本日午前十一時御

祀堂御裝飾、康莊様御祭主神饌十一台、神官杉浦勝雅・今村今、
伶人佐々木源十郎・本島重久・千葉資胤出頭奉仕、無御滞被為濟

久我様〇 御鏡餅〇重 御花〇筒

北畠通城様〇 御花〇筒

南部広矛夫婦〇 榊料金〇貳拾五錢

右之外御令扶始奥女中・御出入女中・稻荷堀・菓鴨御邸之面々

御玄関番迄、各局申合七御備物有之、爰二略ス

本日夕方右御年回二付御方々左之通御招請、久我建通殿御断・久我

通久殿御断・北畠通城殿・松平直静殿・松平熊姫殿・松平綾子殿

御供女中老人・菅浦久我様女中断・岩佐純断・伊藤輔断・南部広矛・

同人妻断・山沢静寿・荷心院・梶野・たき・哥・つる・よつ等也

御肴五種・御菓子 御酒後御膳被進被下相成候

金貳円五拾錢

御酒肴
御膳

杉浦勝雅

同 貳円

同

今村 今

同壹円三拾錢ツ、同

伶人三名

一金五拾錢ツ、

御家令始奥表一同

一金三拾錢ツ、

室田文六
尾崎 涼
大野素久
中島直蔵
天野五平

一金貳拾錢ツ、

(家丁
家婢)

一金五拾錢

大塚義明

一金貳拾錢

御門番式人江

松平直静様〇 榊料

同 熊姫様
お綾様 時の花〇筒

一時の花 (ちえだ
豊瀬)

一金壹円 御祭典二付被下之

海晏寺 山本探嶺

一八月廿二日

鈴木 敏

康莊様江随従専学問修行有之度候事

附学資并食料等御賄賜候事

八月廿二日

松平家執事印

一同日外務卿江電報、本日午前五時下ノ関発之旨ニ而宮内卿〇内々

御通知ニ相成候

十六日ノ夜花房公使ハ京城江着セリ、朝鮮政府ハ城内ニ旅館ヲ
設ケ丁寧ニ待遇セリ、城内ノ人心モ極テ平穩也

馬関 宮本小一

井上外務卿殿

海軍卿へ届 午前二時二十分
馬関発三時着

仁川港金剛艦

当艦九日・日進艦十一日・明治丸十二日・比叡艦十四日・清輝艦十六日当港着、公使八十六日本官及高島八十七日入京ス、支那軍艦三艘入港ス、一艘十二日出港不日二艘下陸軍千人来ルトノコト、委細ハ郵便

海軍卿

追伸、迅鯨ハ昨廿一日横須賀拔錨仁川へ向ケ出發

×

過日右大臣殿ハ御演達之末別紙二通到来候ニ付、為御心得内々入御一覽候様右大臣殿被申聞候間、此段申入候也

十五年八月廿二日

徳大寺宮内卿

久我正二位殿

松平正二位殿

追而早々御順達、從周尾御返却有之度候也

兩大臣御書翰

朝鮮事件ニ付清公使ト往復書翰之写、御入手相成度段御申立之趣ニ付、別紙写指廻候間貴下ニ限り御一見可被成候、右者外交機密ニ関スル書面ニ付、他江漏洩候様之事有之候而ハ不相濟義ハ申迄も無之、御承知之事と確信致候得とも、尚御注意可有之為念申添候也

右大臣岩倉具視

太政大臣三条実美

正二位松平慶永殿

尊書拜見仕候、今般朝鮮事件ニ付清公使ト往復書翰之写御差廻被成下、謹而拜見仕候、右者極々外交機密之書面ニ付御垂示之趣承知、決而悴江も不申聞程之義ニ而、此儀ハ御降意奉希上候、依之拜見済返上仕候、御落手奉願候、恐惶謹言

明治十五年八月廿三日

正二位松平慶永

三条公

岩倉公

閣下

八月廿一日午前四時十五分發在馬関竹添進一郎君ヨリ電報

大院君ヨリ使者ヲ以テ暫ラク漢陽府ニ来ルヲ見合セ呉レヨト屢々花房ニ請願セシカト、花房ハ右ニ関セス京城ニ進ミタリ、大院君ハ特ニ花房ノ為メニ城内ニ家ヲ設ケ、最モ懇切ニ待遇ス、花房ヨリ二日前馬建忠ハ軍艦三艘ヲ携テ仁川港ニ入タリ、而シテ馬建忠ハ花房ト各自軍艦ノ上ニテ互ヒニ通信セリ、拙者ハ花房ヨリ二日後レテ入港シ、十五日仁川ニテ花房ハ面会シ船ニ還レリ

一八月廿四日岩倉公ヨリ御書翰

昨日者御念書何も敬承候、去ル二十日故將軍徳川家茂公十七回法会ニ付勅使被指向及香料下賜候儀ニ付、御念示却而恐懼候、勿論厚キ思召ヲ以特別御沙汰相成義ニ候、且又朝鮮支那關係之儀ニ付深御憂慮態々御申越之次第御尤と存候、於閣議も略同様

評議中ニ御座候、竹添為人之義是亦致承知候、同人義今明者^(マ)帰
京卜存候条、其上実地之形況可相分と存候、此段御請迄如斯候、
以上

以上

八月廿四日

具視

松平慶永殿

一 同日 香港報

天津接^ニ近信云^ニ、觀^ニ於日本情節^ニ中国与^ニ日本^ニ、大局恐^ニ有^ニ決
裂^ニ、或将不^レ免^ニ於兵戎^ニ、津人頗為^ニ寒心^ニ、惟佇^ニ望李節相起復
来津^ニ、藉^テ以^テ維持於不敵云

一 八月廿五日午前八時出門、例月の天機伺として御参内相成候

一 同日祠堂ニ於て齊善命の正忌祭^中を執行せらる、祭主正二位様・

副祭主正四位様、供饌七台

一 同日部長局届

先般以番外農商務省^ノ今般於上野公園内、内国絵画共進会被致
候ニ付、画工之模範とも可相成内地古画ヲ展列シ、奨励ノ為メ
善画有之面々出品方通知候様御達之旨、一族中江も夫々通知候
処、從五位下松平直平^ノ別紙目六差出、其余ハ模範共可相成善
画無之候条申出候、此段御届申候也

八月廿五日

廿六類族長 正二位松平慶永

督部長岩倉具視殿

一 八月廿六日

岩倉公御答書

一 昨日御書何も致承知候、此頃御面会被成度趣、明朝八時来車
候ハ、可得拝面候、朝鮮政府之模様及支那關係之旨趣、共ニ愈
平穩之結果ヲ可得と被存候、右ハ昨日竹添帰朝奏聞之次第ニ而
推測候事ニ候、先者右申入度如斯候也
八月廿六日 具視
松平慶永殿

一 同日

別紙一六々四号之通宮内卿^ノ被達候条、此段該族管中江通知可
致、此段相達候也

十五年八月廿三日

督部長岩倉具視

非役從三位以上勲三等以上之輩、平日天機伺等ニ而参上之節、
皇居車寄門迄乗車馬被指許候間、別紙写之通被定候条此旨華族
之輩江可相達候事

明治十五年八月十八日

太政大臣三条実美

一 八月廿七日東北鐵道事件ニ付岩倉公御邸へ被為入、先御家扶へ御
面会御口上御通シ、直ニ岩倉公御接面、其節一応御口演左之御書

取御指出相成候

現今政府不容易御多端之際甚恐入候得共、兼而發起人共々懇願仕居候東北鉄道一件も、早晚許可之御指令ハ可被為在ト信認仕候得共、目下起業等之御評議不被為届候御儀ト万々奉拝察ハ仕居候得共、日一日ト許可ヲ渴望仕候、余議論益盛ニシテ経費も自然右ニ准シ甚タ心配仕候、就而ハ当今御繁務中恐入候得共、發起人之内前田利嗣外壺・二名閣下江御呼出シ被下、方今一方御多事之御場合ヲ以急々難被及御指令歟、又ハ追而御詮議可被為在歟、御内情等親敷御垂示被下候ハ、該社之方向も曠日弥久之旨ヲ主トシ、追而御指令ヲ待チ施行候得者、計費上ニ於テモ冗費ヲ減シ、維持方モ自カラ漸進之処置行届哉ニ愚考仕候、右ハ慶永政府之御都合ヲ恐察シ、又該社之目的ヲ斟酌シ、一己之存意ヲ以極察奉内陳候、此義毫も他へ御漏洩なく何卒御賢慮之上御指揮奉仰希候、頓首再拝

八月廿七日

松平慶永

右畢而種々御密話も被為在候御様子ニ候

一八月廿九日井上外務卿江御面会被仰入候処、左之御回答有之候

貴翰拝誦、陳者御来訪被下候趣ヲ以日限御問合之趣拝承、明三十日午後第二時官舎へ御来車被下候ハ、可拝顔候、右拝答如斯ニ候、不具

八月廿九日

井上 馨

一八月三十日福井県令より電信

此度中川ノ代理御解レタルニ付常務委員モ解任ヲ願フタルヨシ、窃ニ聞ク所ニ依レハ多少ノ不平ナキヲ保タス、右ハ閣下深キ思召アルコト、拝察スレトモ、今日苟クモ不平ヲ懐カスル時ハ、総テノ事ニ付不都合ヲ生スル掛念アレハ、何卒無事ニ纏マル様御推量ヲ乞フ、委細郵便

右御返翰

一書陳啓、炎涼混交之候、愈御清安御奉務奉賀上候、陳ハ昨日電信ヲ以中川祐順今般代理断候義ニ付御注意之条令感謝候、就而ハ本人不平ヲ抱ク時ハ総而都合ヲ生スル趣御掛念、右ハ如何伝聞候哉推測致兼候得共、中川ニ於テ不平ヲ懐キ候義ハ更ニ不得了解、如何トナレハ代理ヲ断候儀ハ、本人其任ニ不適當トカ或ハ事故アルニ非ス、元來是迄東京・金沢・福井事務所之体裁ハ曖昧ニ付、今般会社之体面ヲ改メ、三事務所共常務委員ヲ置キ、願書記名發起人共株金之幾分ヲ集合シ、万般創業費ニ当テ施行候様予定シ、会社要件ハ東京發起人ヨリ金沢・福井常務委員指揮為取扱候事、然ルニ各地代理ヲ置候時ハ、東京發起・地方發起代理之権限自カラ矛盾候様不都合出来候ニ付、不得止代理相断候次第ニ御座候、況ヤ願書許可も此頃迄二者御指令も可有之信認候処、不斗朝鮮事件ニ而自然御指令も遅延可相成ハ難遁哉ニ愚考候故、此際可成之冗費を省キ、持久不撓之精心ヲ

以漸進維持之目的ニ候処、較モスレハ益振張急進之論も相起り

候得とも、前条之見込ニ而百事御許可を得るを機会ト耐忍候事

故、右漸進・急進両途ニ於テハ中川持論少シク不平ヲ鳴ラシ候

哉も難斗候得共、此義ハ事変之然らしむる所にして、不悪御汲

察希候、尚又御地募集之人情徒ニ伝聞を誤解シ、折角之応募も

瓦解ニ至候様之事ニ而ハ、昨年来不容易貴下之御奨励并ニ発起

人共之心配も無効ニ属シ候間、内外御注意御教諭相成候様、別

而希入候、書ハ不尽言、別而時下御保愛奉專折候也

八月卅一日

松平慶永

石黒君

貴下

一八月卅一日午前八時御出門、明宮御降誕ニ付、青山御所内仮御住

居江御参賀被遊候

一九月一日本日御庭宗像宮御祭典ニ付御方々様御参拝、神饌七台・

榊壺对被供、正二位様御祝詞御上読相成候、右御祭典ニ付御邸内

外子供参詣ヲ被縦煎餅被下之、奥表一統江御酒肴代り金貳拾錢

外二御赤飯壹盆ツ、被下之、家丁・家婢へ同拾錢御赤飯同断、春秋

御祭典之節右之通御成例と相成候

一同日節子様御誕生日ニ付、御方々様赤の御飯・御焼肴御祝被遊候、

但シ明後三日之処本日へ御繰上相成候也

一九月二日馬関発電報午後九時出、同十時卅分着

井上外務卿宛

中山ヲ経テ花房

王ハ今月二十日謁見ヲ与ヘタリ、拙者ハ要求ノ書ヲ呈セシニ王

ハ宰相ニ本事件ヲ委任スルト云ヘリ、三日間回答ヲ待シカ其翌

日宰相ハ書東ヲ送り、彼ハ新ニ王ヨリ他出スルノ命令ヲ得ルト

云ヘリ、事件大ニ等閑ヲ附シ協議ニ及フノ望更ニナカリシ、依

テ書ヲ国王ニ贈リ京城ヲ辞去セリ、其途上一書東来リタレトモ

唯先ノ書東ノ返辞ナリキ、既ニ濟物浦ニ到着スルニ及ンテ猶更

ニ書東来リ、彼方ニ於テハ出張シテ事件ヲ協議スルヲ好ムノ意

ヲ記載セリ、拙者之レニ回答スルニ二日間辞去ヲ猶予スルヲ以

テセリ、然ル処全権委員李裕元柳瑛同副員金宏来リ談判ヲ開キ、

遂ニ三十日於テ大満足ニテ条約ヲ締結セリ

右之如キ喜報アリ、全約ニ相接スル又遠キニあらざるへし

迅鯨艦唯今着シ報ス、朝鮮政府ノ談判平和ニ調ヒ彼レ我要求ヲ

領諾セリ

電報文言

花房公使ヨリ 中山議官補取次

井上外務卿宛

右条約ハ今回暴動ノ償賠并ニ修好ニ関スルモノ数件ニテ其大意

左ノ如シト云

今ヨリ廿日間ニ暴徒ヲ捕縛シ嚴刑ニ処スヘシ、糾問ノ席ニハ

日本人立合フヘシ○日本人ノ殺害サレタル者ニハ相当ノ礼ヲ

以テ埋葬スヘシ、而シテ朝鮮政府ハ日本人死傷者ノ家族扶助料トシ金五万円ヲ払フヘシ○朝鮮政府ハ損害并ニ軍費贖賠ノ為メ、金五拾万円ノ償金毎年十萬円ツ、ヲ日本政府ニ払フヘシ○日本政府ハ京城公使館（衙）京城公使館護衛ノ為メ兵隊ヲ駐在セシムヘシ、其軍營ノ建築修復ハ総テ朝鮮政府ニテ弁スヘシ、護衛兵ヲ廢スルハ日本公使ノ見込次第タルヘシ○朝鮮政府ハ不都合ヲ謝スル為メ、国書ヲ携ヘタル特派使節ヲ日本ヘ派遣スヘシ○元山・釜山・仁川ノ居留地遊歩規程ハ自今各五十里（朝鮮里方）トナシ、二年ノ後ハ更ニ（百里）同上トスヘシ、今ヨリ一年ノ後ニ至レハ楊華鎮オモ貿易場トスヘシ○日本公使領事附屬ノ役員并ニ家督ハ礼曹（朝鮮ノ外務省）ヨリ免状ヲ以テ自由ニ内地ヲ旅行スルコトヲ得ヘシ、地方官ハ免状所持ノ人ヲ護衛スヘシ云々

十五年九月三日

各位愈御安適奉寿候、唯今条公（方）如別紙被申越候条、早々及御廻達候、乍御手数周尾（方）御返却希入候也

九月初三

宗城

慶永殿 元徳殿 茂政殿

朝鮮之電報御廻申候、御入手被下度候、御同列へも御序ニ御廻し有之度候也

九月三日

実美

伊達老公

一井上外務卿江中山を経て花房（方）之電報、日報社新聞ニ記載有之ニ寄、老公御日記上ニ御省文相成居、尚日々新聞上吟味スヘシ

九月二日午後十一時馬関発

井上

中山ヲ経テ花房

馬建忠ハ去月廿六日京城ニ入り、大院君ヲ諭シテ漢陽ニ入り支那ノ軍艦ニ来ラシメタリ、（丁汝昌）支那ノ提督同日大院君ヲ連レ天津へ向ケテ出帆セリ、馬建忠ハ京城ノ諸方ニ布告ヲ張付テ、暴働ニハ主謀者ナキカ如シ、乍併公衆皆大院君ニハ能ク之ヲ知ルト云、故ニ支那帝暴動ニ関シ大院君ニ北京ニ於テ查問スヘシ、併シ右ハ身体ニ害ヲ加ル如キコトハナカルヘシ

一花房公使ハ再ひ仁川に着されし時、左之書を近藤領事カ携帯シテ同府使ニ托し、彼政府江送られしと、但シ文中如昌木之三字ハ誤字なるへし、難解を以訓点を施さす

逕啓者七月廿三日有貴国人数百困公使館且於仁川府再行襲撃等因本官向在英国船飛魚号上奏主上殿下如昌木（方）想既経御覽今本官特奉本国欽命再進貴京將有所問護衛以兵員望於貴京内更撰館舍以充駐留併望予備兵員止宿之处肅此專誠敬具

明治十五年八月十五日

弁理公使花房義質

統理機務大臣閣下

領義政閣下

逕啓者花房弁理公使駕明治船本日午牌到濟物浦明日將取路仁川

進往京城也、再昨小官会富平府予議公使館舍及隨兵止宿等事該府使約速政府回題而為通報至今未有所聞無乃遷延乎茲先報道之貴下転報之貴政府可也敬具

明治十五年八月 領事兼外務書記近藤真鋤

○馬建忠ハ左ノ揭示を韓廷及京城ノ各所ニ為スニ至リタリト

欽命二品頂戴弁理朝鮮事宜候遵道馬

欽命広東水師提督軍門朝鮮瑚適巴図魯鳥

記名簡放提督軍門弁理朝鮮事宜巴図魯丁

欽加布使隨弁朝鮮事宜阿南侯称道魏

曉諭事照得朝鮮為

中国藩服之邦素乘礼義比年以来權臣竊柄政出私門毒積禍深遂有今年六月之變夫弑妃辱王殘民虐吏一時並發千古之至變也凡乱之興必有主者或由於豪宗積威之漸或根於奸者異志之萌原本各殊輕重斯判頃者告變上聞道路流傳皆言汝国太公寔知其事皇帝用是赫然震怒念汝国太公既知其事必能得其主名命特遣師臨爾国境先以国太公入朝親問事狀一俟罪人之得更申天罰之威殲渠穢從明變典訓廷旨殷功恐不祇慄今統領北洋水師丁軍門暫与国太公航海詣闕処人骨肉之間全恩明義我大皇帝自有權衡必不於爾太公有所深貴但舉動倉卒恐爾上下臣民未論斯意妄生疑懼以元代執高麗忠宜忠惠為例大負于聖意高深此外或從前乱党以畏迫更造異謀日前大兵水陸齊進已有二十營其後繼發者海上相属爾自度待王師可以顯相拒嚴陣相待儘可一戰否則深鑑禍福早自效發幸勿執迷帖惡自速誅

夷而震恐良善嗚呼天朝視爾朝鮮臣主誼猶一家本軍門奉命而來則体皇帝之至仁為軍力之律令雷霆日月備聞斯言告諭諄々尚共信諒切々特諭

光緒八年七月十三日

一 九月五日午前九時出門例月の天機伺として御参内相成候

一 九月六日橋本実麗殿より御通知

実麗儀去月卅日麝香間祇候被仰付深畏入存候、此段御吹聴申入候、就而者向後御世話ニ可相成宜頼入候也

八月三日

橋本実麗

一 九月七日午後四時十五分發馬関通信者ヨリ電報

馬建忠カ支那伴ヒシハ大院君ノ外李載完・李憲泳等三四十人、又国難ニ死セシハ李載応・金輔鉉・閔泳翌、閔鎌鎬ナリ、妃ハ実ハ死セス、其他死セシト言ヒタル者皆存ス、仁川府ノ毒殺ハ誠ナリ

一 九月十一日昨夜小石川御邸老番御土蔵江賊忍入候得とも、御道具類別条無之

一 同日岩倉公江左之通御書通有之

謹而奉上申候、兎角不調之氣候ニ候処先以御安泰奉賀候、陳者

一昨九日午後尊邸江参上仕候節、偶然井上外務卿江面会候ニ付、

鉄道之義承候処、同氏之返答ニ者東北鉄道事件ハ意見も有之二

付引請候積り、然ル処脳病治療之為メ来ル十三日温泉江出立候

間来月帰京可仕候、其後夫々相談可申旨之内話有之候、左候ハ

、御評議振ニ寄候而ハ、或ハ遅速も可有之、夫々順序も可有之

哉ニ拝察仕候、就而者過日も参上之節奉内啓候通り、目今発起

人心得ニ於テ緩急取計方御座候間、急進・漸進之場合篤ト御斟

酌之上、発起人之内前田利嗣外壺兩名御召呼被下、創業節減法

新ク御懇切之御内諭被下置候様奉願上候、実者慶永是迄ハ有志

者ニ対シ朝鮮事件を以鎮庄致置候得共、今日ニ而者該件も辞柄

トならず殆んど困難仕候、況ンヤ朝鮮事件好結果報知後ハ一層

拡張も勵敷、最早鎮庄之道も無之、弥増困究ヲ極申候、故ニ此

際閣下ハ前条御内諭ニ於テモ、亦其高論ヲ主義トシ、先々教諭

維持方施行仕度奉存候、毎々御多端之御中奉煩尊慮候儀ハ恐懼

之至ニ候得共、又該社不得止事情も御坐候間、慶永一己之存意

ヲ以、犯尊嚴任御懇命奉懇請候、尚御推談奉願上候、恐惶頓首

敬白

九月十一日

松平慶永拜

岩倉公閣下

一九月十四日横井平四郎男伊勢時雄参邸、老公御逢、村田氏寿侍席

奉書^{細卷正} 五箱御送附相成候

一九月十五日齊善命御祭典ニ付正二位様御祭主御奉仕、正四位様御

不例ニ付御拜無之

一同日岩倉公御直書

前略過日者朝鮮事件ニ付御細示且玉詠深感佩候、従来為国家御

苦心之御衷情顕然、呉々感服御同慶此事ニ候、其後鉄道之義ニ

付来翰是亦承知仕候、明十八日午後三時半来車候ハ、委曲御答

可申入候、此段御請旁一筆如斯候也

九月十五日

具視

慶永殿

一九月十六日韓地發其筋江電報

本月七日花房公使ハ漢陽府ニ入り朝鮮政府と充分談判ノ末、九

名之犯罪人ヲ捕縛せしめたり、内四名ハ張本之身及公使館ニ対

シ害を加へたる謀主者と定められたり、一名ハ病死し三名ハ流

罪ニ処せられ、外壺人ハ王宮ニ対する罪人なれハ我ニ於テ何之

關係なき者なり、今壺名ハ我も同意して無罪と定めたり

本月七日ボカジ(原ノマ)の前にて我官吏も臨席シ、朝鮮国法ニ

照シ罰したり、八月廿八日ニ於テ朝鮮政府ハ清兵之手を借り十

一人之罰人^(罪)を捕縛して之を罰したり、其内六人ハ公使館を襲ひ

且花房其他を仁川迄追ふたる者なり、依而我二対したる罪人ハ拾式人なり

一同日午後九時十分発同報

拙者より最後の電報に述べたる如く已ニ満足なりと信シ、此上暴徒を探索し之を罰する事をば止めたり、併シ外国人との交誼を倍々親密ならしめ、且蛮夷進入云々の石碑を取除く事を全国中に偏く嚴令する事を忠告せり、此忠告ハ遠からず採用すへしと思はる

一同日午後九時四十五分発同報

本月三日附ヲ以書翰、馬建忠ハ罪人を捕縛する事及償金之ケ条を易くして且軽くせん事を内密請へハ、花房ハ馬氏と談判者開かさりき、馬氏ハ四日ニ天津江向け去りたり、再渡航するや否分ならず、趙寧夏及ヒ金宏集馬氏と同行せり

一同日左之通被蒙仰、為御知相成候

従五位松平直方

修史館御用掛被仰付候事

明治十五年九月十六日

太政官

第四局御用掛

御用掛松平直方

明治十五年九月十二日

総裁

一 九月十七日上野東照宮御祭典ニ付、例式之通御一族御参拜ニ付、

午後一時過御出門御参拜、先祠官杉浦勝雅宅へ御休息、御宮御都合ニ寄御詣拜、神酒御戴御退下、再勝雅宅ニ而御茶・御菓子・御赤飯等指上、御休憩之後御帰邸被遊候但シ正四位様御不例ニ而御断被遊候

一 九月廿日祠堂に於て忠昌命の正忌祭中を執行せらる、祭主正二位様、供饌七台、正四位様脚氣御撰養中御拜無之

一 九月廿一日日本日故徳川從二位慶頼卿公四弟七回御正忌之処、御簾中

和楽様思召ニ而、兼而上野凌雲院江御位牌御安置神祭ニ御取二付、扱相成居也

不表立御法事御執行相成候、公依之同院へ御参詣、御香奠金五十錢

・御花壹筒・御菓子壹台被供之、御二度御膳御精菜ニ而御供進、午後御墓処江御参詣直ニ御帰邸被遊候

一 九月廿三日左之通御断書御指出相成候

今廿三日秋季祭ニ付、大礼服着用正午十二時三十分より午后二時迄ニ参拜可仕之処、依所勞不参仕候、此段及御届候也

明治十五年九月廿三日

正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

一 九月廿五日例月の天機伺参内せられず、御脚氣の御容体なりりし(衍)

故也

一九月廿七日左之通御達有之

明廿八日勲章授与式被行候ニ付、為列立午前十一時大礼服用
参内可有之候也

十五年九月廿七日 宮内卿代理 宮内大輔杉孫七郎

勲二等松平慶永殿

右御請

明廿八日勲章授与式被為行候ニ付、為列立午前十一時大礼服用
用参内可仕旨奉敬承候、過日来風邪ニ付参内難仕此段申上候也

十五年九月廿七日 正二位松平慶永

宮内卿代理 宮内大輔杉孫七郎殿

一九月廿八日花房帰朝参内謁見

勅語如左

汝義質朝鮮京城之變ニ遭逢シ頗ル艱難ヲ極メ、再ヒ訓令ヲ帶ヒ
彼地ニ渡航反復弁論事和平ニ帰ス、此汝義ヲ執テ不撓ノ致ス所
朕深ク之ヲ嘉尚ス

一九月廿九日

副督部長東久世通禧殿

明宮来ル十月一日午前九時青山御産所御出門、麴町区有楽町式
丁目三番地中山忠能邸江御引移被遊候旨被仰出候、此段相達候

也

十五年九月廿八日 宮内卿代理 宮内大輔杉孫七郎

一十月三日岩倉公江左之通御連名ニ而御呈翰相成候

九月廿一日御投寄之雲章拝読仕候、弥御堅勝御旅行珍重奉大賀
候、陳者過日小生等参候之砌者充分意見ヲモ吐露シ愚衷再陳致
候処、尚又尊書之趣ニ而ハ今般福島県へ御旅行ニ付其内会館組
織万事取調置候様御示ニ預り候得共、小生等嚮ニ建議シタル主
義ニ於テハ此事ヲ挙て閣下之統理アランコトヲ希望スルノ点ニ
止マリ候ニ付、外一統へも協議致候得共更ニ閣下ヲ措テ取調等
ニ關係之儀ハ固ヨリ一統之素志ニも無之、幾重ニも御断ニ及度
決定致候間、此段御了知被下候、猶委細之義者御帰京之上拝眉
ヲ得陳述可致候、仍而御請迄如斯御座候也

十月三日

池田章政

伊達宗城

松平慶永

岩倉殿

一十月四日会館より左之通

今般朝鮮事件平和ニ局を結び花房公使帰朝ニ相成候ニ付而ハ、
近日祝宴相開キ同公使ヲ招請シ我國威ヲ輝カシ安寧を保持セシ
祝意ヲ表シ度候旨、有志之者ハ請求も有之、就而者同族中右ニ

同意之諸君も可有之二付御族中江御通知相成、御同感之諸君ハ

松平慶永殿

来ル九日中会館迄各自御申出相成度、尤場処日限等之義ハ人員相極り候上ニ而御通知ニ及可申候、且右会費トシテ当日金式
円御持参有之度、此段合セテ御通知置相成度候也

一十月七日故橋本左内正忌祭ニ付、橋本綱常御臨座相願被為入、

海江田武次・伊丹重賢・竹添進一郎・村田氏寿等会祭相成候

十月四日

京極高典

靈前江 (蛋) 鶏膏糕 老折

醍醐忠敬

右御備ニ相成候

一同日故中根雪江正忌且五年祭ニ付、御祠堂ニ於テ特別祭典御執行、
神饌七台、御陳供御自身御従事被為在、且海寺墓処江御代拝鈴木
(晏脱)
準道被仰付候

一十月五日例月の天機伺として御参内、青山御所江も御参上相成候

一同日閑院宮御洋行御離盃ニ付、御招ヲ以芝紅葉館江被為入、有栖
川・伏見・梨本之三宮、山階定磨王・多田女王・華頂宮御息所・
天璋院様・近衛忠熙公・徳川達孝様御同席、其他宮方女中陪従、
御饗応之御余興觀世囃子有之候

一十月六日東京地学協会ヲ

今般国家ノ為非常之功勞ヲ建テ帰朝相成候花房義質君之為メ、

不取敢其会友タル博愛社・東京地学協会・斯文学会・亜興会・

統計協会并二万年会之各会員中有志之輩申合祝宴相開度、賛成

之諸君ハ十月九日迄ニ神田錦町学習院内地学協会事務所江御通

知被下度、尚会員外ニ而も同志之諸君ハ各位ヨリ御誘引相成度

企望致候、右御通知ヲ得人数相分り次第会场并饗宴之都合相定

メ御報知ニ可及候也

十月五日

東京地学協会幹事

一十月八日地学協会江御回答
花房公使帰朝ニ付祝宴ニ会スルノ有無垂示セラレ慶永聞之欣然

二不堪、素ヲ賛成シテ来会スルヲ希望ス、不具

十五年十月八日 社員松平慶永

東京地学協会幹事

一同日華族会館江

今般花房公使ヲ招請シ近日開祝宴候ニ付同意之有無族中江早速

及通知候、小子素ヲ賛成スル処ニシテ希望仕候、此段申入候、

場処日限之義追而御通知之旨拝承仕候也

明治十五年十月九日

松平慶永

醍醐忠敬殿

京極高典殿

一十月十三日学習院より左之通

来ル十八日本院開業式、天皇陛下・両皇后親臨之五週紀年二付
聊祝酒ヲ呈度、御差支も無之候ハ、同日午後三時御来会被下
度、此段御案内仕候也

明治十五年十月十二日

学習院長立花種恭

特撰幹事松平慶永殿

追而御来会無之向者来十五日迄二御報相成度候也

ノ

明治十五年十月十八日学習院開業親臨式五週紀年祝式次第

一午前第八時正堂ニ於テ祝式

一督部長・部長・会館長・特撰幹事・総代幹事・宗族長総代着
席

一院長以下五級以上職員、教師・生徒一同着席

一院長以下五級以上職員、教師・生徒一同御影ヲ拝ス

一院長勅旨・令旨ヲ讀ム

一研修科生徒総代祝詞

一中学科生徒総代祝詞

一小学科生徒総代祝詞

一女生徒受持教師女生徒之祝詞ヲ朗読ス

一監事教師総代祝詞

一午前第十時會館議事堂ニ於テ博士モールス氏演説

一正午十二時生徒一同ヲ饗ス

一午後第一時打毬

一午后第三時宴会

一同日地学協会より通知

花房弁理公使祝宴之義、来ル十九日木曜午后四時九段坂上靖国

神社内遊就館ニ於テ相關候条、当日会費弍円御持参御臨席被下

度、用意之都合も有之候間、御諾否共十七日火曜迄ニ神田錦町学

習院内東京地学協会事務所迄御通知相成度候也

伊達宗城

佐野常民

中牟田倉之助

渡辺洪基

重野安繹

大鳥圭介

松平慶永殿

○花房公使御招饗之件、御同族及地学協会御所旁ニ寄両様共御断書御指出ニ相成候

コトヒト

一十月十四日閑院宮載仁親王本日御拔鐘ニ付、為御見送新橋停車場

迄被為入、三時卅分別仕立汽車ヲ以御発軛ニ付、御分袂帰邸被遊候

一十月十五日学習院江左之通御断

来ル十八日本院式及幸啓之五週紀年祝宴来会之義、御申越相成候処、近来脚氣ニ而難義候間乍遺憾不參、此段申入候也

明治十五年十月十五日

特撰幹事
松平慶永

学習院長立花種恭殿

一十月十七日徳川家達様御義、昨夜英国カ御帰朝之趣御回家御家扶カ通知ニ相成、依而不取敢御家従御使ニ而御歎被仰進候、翌日午前十時過御命駕、為御歎御参邸被遊候、正四位様ニも御同様為御歎被為入候

一同日曾テ伊達宗城卿・長岡護美殿岩倉公江御参謁之処、同公より被仰聞候御覚書、右之左通重浜勝盛カ廻達

岩倉公御見込

部長局廢局ニ付箇条

一大藏省・宮内省・十五銀行部長關係金六拾万円名義云々ノ事

但此件尤困難ナルヘシ、成否確乎難期候得共、廢局決定ノ

上ハ精々尽力見込ノ事

一金六拾万円衆貧華族ニ貸与返上乃チ明治十九年迄ヲ以テ期ト

セリ、数年間ノ義且一朝蹉跌スル時ハ、衆華族家産根本銀行ニ関スルヲ以テ重事トス、仍テ宮内省華族課ニ於テ担任スル見込ノ事

一西京部長局始末多少ノ困難アルヘシト雖トモ、廢局前本局ノ金多少失費前途會館ノミニ組織可致見込ノ事

一廢局之節宮内省ニ於テ華族局或ハ課ヲ設ケラレ、願伺諸事公ケノ義ハ是迄ノ通処分、又前文金六拾万円ノ口合テ引受見込ノ事

右之条々乍不及御引受申儀ニ付テハ、今度御用出張中會館組織各位ニテ御担任願置候儀ノ事

但右出来無之候而ハ西京分局処分何レモ脱字アルカ難致故ナリ、且分局処分多少ノ入用モ有之ニ付、廢局前本局ノ金ヲ以テ処分旁差急キ願上候事

前途會館拡張御意見ニ付尚又愚見申入箇条

一自今會館之儀ハ當時部長局ヲシテ宮内省ヨリ會館ヘ代金六千円ヲ以テ御払下願之事

但土地ノ儀ハ何千何坪宮内省ヨリ拝借之事

一右御払下代金六千円、出所ハ先年衆華族ヘ拝受永田馬場建家、外務省御用ニ付讓渡其代金一万円トス、此利子凡ソ今日迄ヲ

二千円ト見込、其半減ヲ以テ御私払下見込之事

一會館費額壹ケ年自今凡壹万八千円ト見込ム

内訳

金八千円 是迄会館定額

金壹万円 当下季ヨリ衆華族貯蓄金
利子ノ内ヨリ取出ス

但シ此金会館・学習院等見込相立候儀ニ使用

右ノ外ニ
金六千円

右ハ永田馬場屋敷払下残、何ニテモ見込相立候儀ニ使用

一会館組織ノ事

右ハ十四名及既ニ設置委員会ヲ以テ調査出来ノ上、衆華族ノ
意見ヲ問ヒ成立スルモノトス

一会館組織ニ付在官ノ輩投票ニ不関モノトスル方当然カ、或ハ
在官ニ於テモ衆華族同様孰レニテモ可然カ

一兩大臣ハ職掌ヲ以テ衆華族ニ関係ハ勿論ニ候ヘトモ、会館事
務ニハ公然不関義ニ決度事

一学習院ノ事

右自今宮内省華族課関係カ、其理由取調判然候事

但
一金壹万五千元 賜金

一凡金壹万六・七千元 衆華族学資金

一金五千元 衆華族貯蓄利子ヨリ
当半季へ繰出ス

右

一十月廿一日井上外務卿へ左之通御答書

昨午後之御答書拝披、先以御清迪奉賀候、陳者例之鉄道事件ニ

付發起人一同相揃参謁之義及御照会候処、明後廿三日午後二時
比参館候ハ、御面晤可被成下旨御楮表拝承候、指支無之候間御
命刻必参上可仕候、右之段及御再答候也、敬具

十月廿一日 松平慶永

井上 馨殿

追伸御端書拝承、家令も随行積、此段も申添候也

一十月廿三日秋季御例祭御執行、神官杉浦勝雅出頭、御成規之通神
饌十一台御進薦、伶人三名御雇相成候

一十月廿五日本日御参内之節越前産雲丹五箱御進献相成、宮内書記
官長崎省吾迄御差出、同人取計候

一同日華族会館へ

予而御談申置候花房公使招請之義、来ル十一月一日午後四時芝
離宮ニ於テ開宴候条御出席有之度、万一御差支有之節者廿九日
迄二本館江御報知ニ相成度、此段申入候也

十五年十月廿五日

一同日松平確堂殿へ松平定安殿御退隠之御書面、御内御廻ニ付御写
取被仰付、左之通

拙者多年之苦心を近来持病相募り難儀罷有候ニ付、退隠保養相

加度、就而者自家相談之義先年来物議も有之、拙者ニ於テ極方不都合之事情も有之候間、一ト先御内議を得テ挙行致度、右無御腹臈御示諭之程懇望候也

十五年十月

松平定安

松平確堂殿

松平直哉殿

松平康民殿

尚委細之儀ハ村上勝之助江申含候間、御聞取被下度相願候也

一同日午前九時御出門御參内相成、例月の天機伺なり

一十月廿六日松浦詮殿より御廻章

残炎甚敷候得共各位益御清安奉賀候、陳者高崎正風より依頼ヲ

受候間相願候、別紙加茂真淵立碑箇条書ニ記載之通ニ御坐候

別紙

同人ハ皇学中興之師ニ付、何卒同学有志之諸君立碑御賛成被成

下候様仕度企望之至ニ存候旨、小子も各位江宜頼具候様依頼ニ

御座候、尤即今釀金ヲ主トシ願出候主意ニ者無之、主唱者有名

之者乏敷候間、貴族賛成之尊名を相願度次第ニ相聞へ候条、小

子よりも同様相願心得ニ候得共、先別紙取添供御廻覧尊慮何度、

如斯御坐候也

明治十五年八月廿日

松浦 詮

徳川慶勝卿 広幡 嵯峨 松平 伊達 長谷 毛利 池田

一同日

亀井 壬生 松平確堂卿 津輕 以上御宛

一十月廿八日

来ル十一月一日午後四時於芝離宮、花房公使・仁礼両少将招請宴會ニ付出席之義御申越承知仕候、同日差向無抛用事有之繰合難仕、誠以乍残念不參候、此段及啓上候也

明治十五年十月廿八日

松平慶永

華族会館幹事

醍醐忠敬殿

京極高典殿

一同日岩倉公江御依頼書左之通御呈晋相成候

会館拡張組織方法等私共ニ於テ可取調旨御指示ヲ蒙リ候処、右

者嘗テ陳述仕候通、此件たるや華族一般ニ関シ決而軽々タル事

ニ無之、殊ニ会館之事務ニ付而者今日迄厚キ御注意ヲ以テ相運

来候、末々も有之此一段落之処ハ、閣下ニ於テ専ら御引請被下

候様有之度、素々私共ニ於テも御指示ニ応シ、御賛助之点ニ至

テハ敢而不顧不似、夫々勉励可仕候間何卒右之次第御諒察之程

只管奉懇願候也

十月廿八日

十四侯御連名

岩倉殿

来ル十一月三日天長節ニ付、当局ニ於テ酒饌可下賜之処、本局
營繕中場処狭少ニ付、伺濟之上代料ヲ以可相渡候、依而一族管
毎ニ取束ね族管長江可相渡候条、同日午前十時〇十二時迄之内
為受取出頭可有之、此段相達候也

但シ指支之節者代人指出候事

明治十五年十月二十八日 副督部長東久世通禧

一 同日御簾中様御義、先般来久敷御不例ニ被為在候処、御全快ニ付
本日御快氣御祝御執行、御方々様江御品被進、猶御令扶〇奥表一
統江夫々頂戴物等有之候

一 十一月一日阿部様ニ而謹姫様三十年祭御相当ヲ以、本日御自邸御
祠堂ニ於テ御祭式御執行之旨兼而御通知有之、正二位様午前十時
過御出門阿部様江被為入、御祠堂御拜、御帰浅草西福寺江御参詣
御墓拜被遊候、正四位様ニも午前九時過御出門、阿部様御祠堂江
御参拜被遊候

御祠堂江 鮮鯛料 金壹円五拾錢
神志対 式拾錢位

謹姫様御儀菅姫靈神と御追諡相成候

一 同日松平定安様〇左之御書取御提出相成候

私儀近来多病ニ相成甚以難義仕候ニ付而者、隱居仕保養相加度、
就而者拙家相続人之義、何卒一族御協議ニ而御取極相願度奉存

候、猶宜御取斗之程及御依頼候也

明治十五年十一月一日

松平慶永殿

松平定安

一 同日天長節ニ付左之通御詠進

松有歡声

我君の恵みあまねき大御代に千代田とうたふ松風の声

一 同日宮内卿〇御達

宮内卿茲ニ皇帝・皇后両陛下ノ命ニヨリ、松平正二位閣下及令
娘十一月八日午後二時、赤坂仮皇居御園ノ觀菊会ニ来臨アラン
コトヲ企望ス

当日雨天ナレハ之レヲ止ム

フロツクコート着用

右御請

謹奉对答宮内卿徳大寺実則閣下

閣下依

両陛下ノ勅命、本月八日午後二時赤坂仮皇居御苑ノ觀菊会ニ参
趨スルノ垂命ヲ蒙ル、謹畏謹奉、頓首謹言

明治十五年十一月二日

正二位松平慶永

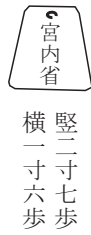
一 同日徳川家達様御使滝村小太郎参邸御口上之趣、家達様御義近衛

忠熙様御女御縁組被遊度旨、御相談被仰進候、依而直ニ御異存不被為候条、御返答相成候

十一月三日天長節ニ付午前九時御出門御參朝、十一時過ク聖上正殿江出御、皇族・大臣・參議・勅任官・麝香間御列床、各国公使・朝鮮正副公使列床、御宴中欧洲楽合奏、十二時過宮中祇候江御礼被仰上御退出

一同日今朝御参内之節御家從之者御門鑑遺失ニ付、即日宮内省江左之御届書御差出ニ相成候

御門鑑遺失御届
御門鑑雛形



右御門鑑壹枚本日参内之節家從之者途中ニ於テ遺失候、此段御届申候也

十五年十一月三日
宮内省御中
松平慶永

十一月四日鉄道事件ニ付岩倉公江御呈書左之通

謹奉寸楮候、然者例之鉄道事件ニ付發起人相揃井上參議江も面談仕候、尚發起人一同申談シ、公尊慮ヲモ伺度且ハ愚見も申上

度奉存候、每度御繁忙之中奉煩尊勞甚恐入候得共、何卒拜謁奉願候、仍御勘考被成下御指支無之日時御指示之程奉希望候、恭具

十一月四日
岩倉公閣下
松平慶永

一同日岩倉公より御書面

前略過日以來御連名御相談有之候会館組織之儀ニ付、一応御相談申入度、来ル六日午前八時御一同御入来ニ而も、又ハ御総代ニ而も御両三名御出ニ而も御都合次第御来車有之度候、就而者引続キ翌七日曾テ貴卿等選舉委員之人々十二名江も面談致度、此儀も賢慮候ハ、承知致度、又或ハ両三日之処一日ニ縮メ、貴卿御連中ニ而者二三名之御代理、委員ハ十二名共一時ニ御面談申候而も宜、如何様共御考次第御答有之度候、此段申入候也
十一月四日
具視

松平慶永殿
伊達宗城殿
池田章政殿

十一月五日前記之如ク松平定安様御隱居御相統御取極之儀ニ付、

御族長迄御書付御申出ニ寄、本日午後一時より当御邸へ松平確堂様・正四位様・松平直克様・松平康民様・松平直平様・松平直静

様・松平直哉様、御令扶中ニ而中沢広江・三上雄之余御令扶欠席右御
揃之上御相談之処、御一同御異存無之事ニ御決定、御相続之儀ハ
裕之丞様直平様御兄を以御取極之事ニ御決議、猶本日御欠席之方々江
ハ御存慮御問合トシテ御名名夫々御出向、御族長迄有無御通報之
事ニ御締約、愈各侯御同慮之処定安様へ御返答被為在候事ニ御取
極メ、御退散相成候

十一月六日徳川家達様左之通御通知

慶喜様御四男厚様御分戸御分籍被成候旨今六日被及御届、同日
家達様御用召ニ付太政官江御出頭之処、厚様御義以特旨被列華
族候旨被仰付候云々

十一月六日 徳川家達様家扶

一同日午前七時卅分御出門岩倉公御邸へ御参集、公及蜂須賀茂韶殿
・伊達宗城殿・毛利元徳殿・池田章政殿・松平詮殿・黒田長博殿(浦)
・山内豊範殿・長岡護美殿・藤堂高潔殿・細川護久殿・島津忠義
殿御代理内田正風・前田利嗣殿御代理北川亥之作御来会之上、岩倉公
の華族会館組織之儀ニ付御相談有之

十一月七日松平定安様御隠居御相談之義ニ付、御答書之義御家扶
鈴木準道ヲ以左之通被仰進之但御一族御協議之上御族長が被仰進候事

近来御多病ニ付御隠居且又御相続人之事、於一族取極候様御依

頼ニ寄早速一同協議仕、左之通及御答候
一 隠居之儀於一族異存無之事

一 御相続人之義於一族優之丞殿御至当卜決定仕候事

明治十五年十一月七日

一族惣代
族長 松平慶永 御印

松平定安殿

右鈴木準道ヲ以松平確堂殿迄御差出シ、御同人方定安殿へ御渡相
成候事

十一月七日

各族長
各管長

来ル十一日・十二日華族之輩江御苑之菊花拝観被指許候旨、宮
内卿方被達候ニ付、參觀之者心得書并観菊之証於当局可相渡候
間、来ル十日午前九時方午後二時迄・十一日午前九時方午前十一時迄之内請取人可差出、族管中江
通知此段相達候也

十一月八日岩倉公江左之通御呈書相成候

一 昨日者緩々得拝顔深畏入候、陳者例之鉄道事件御懇示奉拝承
候、其節近日前田家々扶拙家ニ而呼出候節小拙ニも参上候様被
仰聞、其節一応ハ御請申上候得共、内々承り候ニ前田家々扶方
拝謁願出候趣意ハ種々内情も御座候由ニ付、小拙罷出候而者却

而都合如何哉ト奉存候、況ヤ發起人一同願置候際小拙亾人別段
參謁候而ハ、後日之嫌疑も厭候間、逐而發起人一同御逢之中江
御加へ被下度奉願候、此旨不惡御推恕希候也

十一月八日

松平慶永

岩倉公閣下

十一月九日

昨日者御念書何も拝承、前田令・貴家令面会之義ニ付貴卿御同
席之儀不可然云々何も致承知候、将又会館組織之儀ニ付内田・
北川云々之事、是ハ決而差急候事ニハ無之候間、後日緩々御勘
考ニ而宜ト存候、右御答如斯候也

十一月九日

具視

松平慶永殿

一同日於部長局第二土曜御例会ニ付御出頭之處、副督部長東久世通
禧殿より左之通御演達有之

今般依御評議近日部長局被廢、宮内省中ニ華族局被設、同局長
ハ宮内省官員ニ被仰付候事

是迄於部長局取扱来候願伺届等一切之事務、於華族局引受候事
右近日可被仰出、御発表相成候ハ、華族(局脱)御達可相成、且又追
々同局御達之次第も可有之、為心得族管中江内々通知候様被
申聞候事

一同日左之通松平定安殿御伺書江御捺印相成候

隱居家督願

第二部華族

從四位松平定安

本年四十七年八月

四男 松平優之丞

本年十七年三月

別紙容体書之通将来御奉公之目途無之二付、隱居奉願四男優之
丞江相統出願仕度候二付、宗族・親族連署ヲ以此段相相伺候也(符)

明治十五年十一月

第二部華族

從四位松平定安印

親族 同

從三位松平確堂 同

正二位松平慶永 同

第二部長

南部信民殿

ノ

隱居家督願

前同様御名前

私儀

別紙容体書之通病氣ニ付、前途御奉公之目途難相立候ニ付隱居
仕、右之者江家督被仰付度、宗族・親族連署ヲ以此段奉願候也

明治十五年十一月

第二部華族

從四位松平定安

親族 同

從三位松平確堂

宗族 同

正二位松平慶永

宮内卿徳大寺実則殿

桑原まつ 伊丹 滝 間宮八十子 荷心院

保坂徳右衛門 同人母 御乳持 あさ

午後四時揃 御料理略之

節子様御二度御膳之節御祝

御吸物 御焼肴 こまめ するめ 御膳御一汁三菜酢なます 御汁御平 御焼物

一細川様・鍋島筆姫様・松平確堂様も御品物・御肴等御祝被進

之、其他御令扶従及奥向一統御懇命御館入之面々も御祝義卜

シテ献上物有之候

一同日宮内省華族局の左之通御達

宗族長

今般部長局被廢省中ニ華族局ヲ被置候ニ付、別紙宮内卿達無洩

族中江伝達可致、此段相達候也

明治十五年十一月十五日 宮内省華族局

華族

東西京都部長局相廢、当省中華族局設置候条、此旨相達候事

明治十五年十一月十五日 宮内卿徳大寺実則

華族

東西京都部長局相廢候ニ付而者、従前同局ヲ経テ指出相成候諸願

伺届等、自今当省華族局へ直ニ可差出、此旨相達候事

明治十五年十一月十五日 宮内卿徳大寺実則

華族

今般東西京都部長局廢止候処、宗族長・管長・聯長等従前之通可
相心得、此旨相達候事

明治十五年十一月十五日 宮内卿徳大寺実則

但改撰之節ハ勿論、旅行・忌引等之代理人名、其都度当省華族局へ可届

出事

華族

拾五銀行株券を有スル華族之輩、明治十二年該銀行申合規則ヲ

以上陳之次第も有之、是迄株式分割売渡及譲与等之節ハ、元華

族部長局ニ於テ認可候処、自今当省華族局長之認可ヲ可受、此

旨相達候事

明治十五年十一月十五日 宮内卿徳大寺実則

華族

元華族部長局の貸下金、今も当省華族局ニ於テ為取扱候条、押

借有之輩此旨可相心得候事

明治十五年十一月十五日 宮内卿徳大寺実則

皇后宮大夫宮内大書記官 香川敬三

華族局長被仰付候事

明治十五年十一月十五日 宮内省

一同日例月の天機伺として御参内相成候

一十一月十七日徳川家達様の

一十一月十七日徳川家達様の

近衛故忠房様御息女泰姫様^{七口}御事、家達様と御年齢御相応ニ付御縁組被成、昨十六日就吉辰御引移、即日御結婚首尾克御整被成候、此段申上候也

明治十五年十一月
華族 松平優之丞
族長松平慶永殿
後見人御届

一同日松江様左之通

從四位松平定安

隱居被聞食候事

明治十五年十一月十七日 宮内省

別紙之通宮内省ニ於テ御辭令相成候間、御届仕候也

明治十五年十一月十七日 華族 從四位松平定安

族長松平慶永殿

松平優之丞

家督被仰付候事

明治十五年十一月十七日 宮内省

別紙之通宮内省ニ於テ御辭令相成候間、此段御届仕候也

明治十五年十一月十七日 松平優之丞

族長松平慶永殿

後見人御届

從五位松平直哉

今般私儀松平優之丞家督被仰付候処、丁年未滿ニ付前書松平直

哉江後見為仕候、依而此段御届仕候也

十五年十一月廿日 副館長伊達宗城

後見人御届

華族 松平直哉印

今般私儀父定安家督被仰付候処、丁年未滿ニ付前出松平直哉江後見為仕候、依而宗族・親族連署ヲ以此段御届仕候也

明治十五年十一月十七日 華族 松平優之丞

同 正二位松平慶永

同 從三位松平確堂

宮内卿徳大寺実則殿

一同日午前九時御出門、徳川家達様御婚姻御整ニ付為御歡被為入、

御対顔之上御帰館被遊候

徳川家達様江 鴨壺双

右者昨十六日御婚姻御整ニ付、為御歡被進之

一十一月廿日副館長伊達宗城殿左之通御廻達

太田資美始廿八名ノ別紙建言書指出候ニ付熟考候処、至当之儀

と見留候間、御族中御意見之有無来ル廿五日迄二本館江御通知

之有之度、右投票施行之義ハ更ニ御通知可申入候、此段至急御

族中江御通知有之度候也

別紙

某等本日副館長撰挙ニ際シ閣下ニ建言スル所アラントス、蓋シ
会館ノ盛衰ハ同族各自ノ勤怠ニヨリ、同族ノ能ク奮フト奮ハサ
ルトハ衆論ヲ喚起スルト然ラサルトニ根ス、近日竊ニ聞ク、松
平慶永等十四人ノ者廢局興館ノ議ヲ建ツト、若シ果シテ信ナラ
ハ盍ソ興館ノコトヲ同族一般ノ衆議ニ付シ、其間ニ討論可否ス
ルアラシメサルヤ、或ハ云ク、既ニ部長ニ於テ告知スル所アリ
ト、然レトモ同族過半ハ漠然トシテ聞知セサルカ如シ、夫レ会
館ハ勅諭ヲ遵奉シ華族一般此館ニ従事スル所ニシテ、同族一部
分ノ以テ之ヲ専有スヘキモノニアラサルナリ、苟モ華族ノ列ニ
アルモノ孰レカ我カ会館ヲ度外視シテ其興衰ヲ放任シテ可ナラ
ンヤ、宜シク速カニ日ヲ期シテ在京華族ヲ会同シ、其投票ヲ以
テ委員五名ヲ定メ、將來施設ノ方案ヲ調査セシムヘシ、然後之
レヲ衆華族ノ議定ニ一任シ以テ華族協同ノ実ヲ挙ケラレンコト
ヲ希望ス、某等謹言

明治十五年十一月十三日

太田資美・松平信正・中山幸麿・松平乘承・増山正同・武
者小路実世・島津忠寛・池田徳潤・柳沢徳忠・関博直・万
里小路道房・伊東長壽^{トシ}・阿部正桓・勘ヶ由小路資承・西尾
忠篤・松平頼安・松平乗命・堀田正養・藤大路納親・松平
忠敬・小笠原忠忱・鍋島直柔・水野忠敬・松平頼聡・大久
保忠礼・本多康穰・本多実方

館長岩倉具視殿

副館長伊達宗城殿

一同日

四海清

右明治十六年一月御歌会始御題ニ候条、此旨告示候事

但別紙書式ニ照準一月十日迄ニ詠進スヘキ事

明治十五年十一月十三日 宮内卿徳大寺実則

別紙

料紙ハ檀紙・奉書・杉原紙ヲ用ユヘシ

但シ遠地ノ郵送ノ分ハ美濃紙・薄葉ノ類ヲ用ルモ苦シカラス



裏面書式
某府県下某国
某郡某町住
某郡某村住
華族又ハ平民
苗字名
官位勲等アルモノハ苗字上記載スヘシ

一十一月廿三日松浦詮殿

寒冷之処益御安康奉大賀候、陳者岩倉公ハ被申付候ニ付陳述仕
候件者、此度部長局裏ニ式拾畳・七畳八畳ニ夕間・留守之間・
玄關ト申位之坐鋪有之、右家屋ヲ任有軒ト称シ華族有志之者懇
会場ト致度、依而規則出来致候間一冊供貴覽候、得ト御熟考御
同意ニ候ハ、御加入相成度、尤決而御勸メ不申上候条、何卒来

ル廿七日迄ニ御答被下候様仕度懇願仕候、何れ一兩日中参上ニ而委曲可申上候得共、一応以書中申上置候、規則書者御写之上御返却被下候、且岩倉公より小子江之文通要件之書抜入貴覽候、右之段申上度勿々如此御座候、頓首

十一月廿三日

詮

松平春嶽公

岩倉公被示候書翰要旨

- 一 同盟之人々ハ来ル十二月ヨリ出金・使用之儀ニ御談有之度
- 一 同軒当時之建物外拾式畳敷三間及かこひ水屋壺ケ所、又留守居住居三間斗建添之見込ニ候、コレモ便宜御咄願候
- 一 同盟者人員来廿八日迄ニ御示願候
- 一 御通知御談示之節決而強而御勸不申義、態々御含ニ而御話願候
- 一 卅五名出来之上ハ来月早々極メ、下等之品目之料理を以小生ガ御一同様御招申、其節規則及諸事御懇談之見込ニ候、仍而此規則も印刷ニ可仕候

任有軒規則

緒言

上下ノ俗追年浮薄奢靡ニ移リ、精実勤儉ノ風漸ク将ニ地ヲ払ハントス、其弊実ニ慨嘆ニ勝ヘサルナリ、茲ニ同志相謀リ一小軒ヲ設ケ当務ノ余暇遊就会同ノ所トナス、其主趣互ニ款洽ヲ尽シ心情ヲ慰ムルニアリ、故ニ屋宇ハ其固有ニ任セテ輪魚ノ美ヲ飾ラス、飲食モ亦タ其所有ニ任セテ珍味錯羞ヲ要メス、足ルコト

ヲ知テ而シテ楽ヲ極メス、交ヲ篤シテ而シテ思ニ邪ナシ、庶幾クハ以テ浮靡ノ俗ヲ避ケ、精勤ノ風日ニ厚フスルヲ得ンヤ、因テ之ヲ任有軒ト名ケ其規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

十一月廿五日例月の天機伺として御参内相成候

十一月廿六日福井^(柙)裕海町橋本左内墓前及び武生藤垣神社祠前江、

石灯笼各二基ツ、寄附せらる署名式等茂昭公譜に記載す

十一月廿七日両公午後三時御出門浜町常磐社江被為入、石川県令千坂高雅・福井県令石黒務・前田利鬯殿・有馬道純殿・土井利恒殿・小笠原長育殿・本多副元殿御集会、前田家々扶加藤恒、御家ニ而武田正規陪従、東北鉄道事件ニ付御協議有之、酒飯被命九時半御散会

十一月廿八日日本日於芝紅葉館、御簾中様御快氣御祝宴御開、併而節子様御紐解御祝も御兼相成候也、御客来ニハ徳川達孝様・同光子様・鍋島直大様・同筆姫様・竹姫様・細川護久様・同宏姫様・長岡護美様^{御断}・同おちく様^{御断}・細川護成様^{御断}・細川峯姫様^{御断}・智鏡院・心月院^{御断}・細川様御家令樋口定・鬼塚通理、徳川様ニ而久留栄・女中たけ・八重被召御饗応、手品師柳川蝶治罷出手術御供覧ニ相成、御亭主方ニ而ハ正二位様・御式所様・正四位様

・御式所様・康莊様被為入、御家令扶從・奥女中罷出御取持相勤候

一十一月廿九日福井県令石黒務趨邸、鉄道件ニ付御相談筋有之、武田正規・中川祐順侍坐

一十二月一日松平定安様御卒中病御発之処、于今御開復不被為在不輕御容躰之旨、御家令村上勝之助申上ニ相成候

一十二月二日前記松平定安様御大病ニ付、御見舞として御使者鈴木準道相勤候処、昨一日午後五時卅分御逝去之旨、御家令村上勝之助御答申上候

一同日午前九時松平定安様根岸御邸江被為入、定安様御遺骸江御対顔、御焼香御礼拝御帰邸、松平優之丞様江不取敢為御吊慰蒸菓子壺折被進之

一十二月四日

松平安定様御棺前江 時花一對
蒸菓子一折
右御使御家扶鈴木準道ヲ以御供相成候

一十二月五日里子様・慶光様・御簾中様御養ニ被仰出、御交肴御目

録添為御取替ニ相成、節子様御儀来年巢鴨御養育所より御帰邸相成候得者、御前様御世話被成進候様御倚頼相成候

一同日午前九時出門、例月の天機伺として御參内相成候

一十二月六日日本日松平定安様御遺骸御送棺ニ付、午前八時三十分御出門西ノ久保天徳寺江御会葬、御式済御弁当・御菓子被進之、御埋棺後御帰邸相成候、御親類ニ而松平直忠様・松平直平様・松平康民様・松平直哉様・堀田正倫様御会葬、御一族ニ而ハ公御老人ニ正四位様御代拜武田正規相勤候

定安様御法号 松江院殿俊譽濟世定安大居士

一十二月七日濃州黄梅院出京之旨ニ而參邸

濃州産 枝柿壺箱 進呈之
正二位様江 御菓子壺折 同前

一十二月九日細川護成様御元服、被叙從五位候条為御知有之

一十二月十二日徳川家達様・徳川達孝様御招、御宗家御家扶河田熙・田安様御家扶久留栄・宮重更休 元柳宮奥御右
筆組頭相勤候 陪席御開宴、御饗応として画師星山鑑仙被為召曲画被仰付候

一十二月十四日午後三時卅分吹上御苑滝見御茶屋江御参上、晚餐御
 拝戴七時過御帰邸

一同日福井表午前八時発之電報相達、福井表失火之趣申来、九十二
 銀行・竟成社無事之趣申来候

一十二月十五日鉄道事件ニ付午後小石川御邸ニ於テ御集会、有馬道
 純殿・土井利恒殿・小笠原長育殿・本多副元殿・石黒福井県令等
 也、晚餐御饗進

一同日午前九時出門、例月の天機伺として御参内相成候

一十二月十九日午前九時御出門御参内、宮内卿江御面会、従来御所
 蔵之鉄製竜^{明珍作} 奘箱御献上ト申ニハ無之、天覧ニ御備被遊度、若
 シ叡慮ニ相叶候ハ、御留置被下候様御稟達相成候処、宮内卿御請
 取ニ付御退省被遊候

一十二月廿日正午ヲ鉄道事件ニ付土井利恒殿・小笠原長育殿・本多
 副元殿御来会、村田氏寿・堤正誼・武田正規・^{有馬家々扶}有馬純固
 陪席

一十二月廿一日福井県令石黒務方ヲ鉄道発起諸公江、明廿二日工部

省江御出頭可相成旨啓進相成候、他ニ検査規則廻示相成候

一十二月廿三日東北鉄道会社事件ニ付左之方々小石川邸江御会合、
 有馬道純殿^{代理} 有馬純固・土井利恒殿・小笠原長育殿・本多副元
 殿、小野立誠・村田氏寿・加藤斌等陪席、石黒県令江請書且金沢
 分離御相談也、午餐被進、午後二時過より正四位様・本多副元殿
 ・小笠原長育殿等会社事務所江被為入

一十二月廿四日前田利邇殿・^{前田利嗣殿家扶}加藤恒来邸、正二位様御
 逢相成候、本日村田氏寿・堤正誼・田辺良顕等参邸、中川祐順も
 亦与之学校事件御相談中之処、右前田殿御出ニ付鉄道御相談ニ転
 移候事、石黒県令も来会相成候

一同日午後三時過徳川家達様ヲ御招ニ付被為入、御相客徳川達孝様
 ・松平頼^(聡)総様、表御屋敷ニ於テ御茶菓御酢等被進、夫ヲ奥御坐鋪
 江御通、家達様・天璋院様・奥方様御同坐ニ而御酒肴・御膳被進、
 緩々御親話九時前御帰邸

一十二月廿五日午前十時出門、例月の天機伺として御参内、青山御
 所江も御参上相成候

一十二月廿六日福井県令石黒務鉄道事件ニ付御談示参邸、且明日帰

任出發ニ付御暇乞ヲ兼候也、御接面午飯御進メニ相成候

(袴地 老反
八丈縞 老反)

石黒福井県令

右者鉄道事件ニ付尽力之廉ヲ以御贈相成候

小笠原長育殿〇

真綿式把

右者鉄道事件ニ付毎々御來邸之為御挨拶被進之

一十二月卅一日

一金三拾円

猿屋平七

一同日徳川家達様麝香之間御拜命御振舞ニ付、芝紅葉館江被為入御
同列諸公御集会、囃・狂言等御饗応有之、御酒肴・御飯被進七時
過御帰邸

右者補助講御加入願出候ニ付、特別ヲ以該金額被下切ニ相成候

一十二月廿七日松平直方様御使鳥井忠恕參上、鈴木準道応接候処、

御一族方より族長費トシテ金貳百貳円被進御領手相成候

一十二月廿八日鉄道事件ニ付両公御始有馬道純殿・土井利恒殿・本

多副元殿御參集、中川祐順儀為御代理福井表江罷越候様御倚頼相

成候

(御紋付御羽織 老領
御品代り金三拾円)

中川祐順

右出發ニ付被下之

一十二月廿九日午前九時御出門為歳暮御祝儀御參内、夫〇青山御所
江御參上、両大臣・宮内卿・御親族様方御勤被遊候

一同日

有馬道純殿〇

家鴨壹双